リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村　茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習	1	通年	必修	いいえ	75

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が100%であった。この科目は、6名の教員のオムニバス形式(2016年度より7回1クールで行うことから、実際に学生が受講する教員は4名）で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びで必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（80点以上）に達した学生は61名、再試験対象者は0名であった。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.8、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値がともに3.7であり、平均値が3.3であった「職業選択の選考になった」を除き、その他の項目もほぼ3.5-3.6の範囲にある。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が22名いる一方、3～6回行った学生が15名、7回以上行った学生も18名いた。また、図書館やインターネットを利用した学生も過半数に達している。ゆえに、半数以上の学生について、大学における基本的な学習の技能が会得できていると評価できよう。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉基礎科目」であるが、実際には、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であると考える。②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」の平均値が3.7であった。これらの数値について、2015年度よりいずれも下回っているが、原因については、担当教員の扱ったテーマ内容や、学生が感じる取り組みやすさに多少左右される部分があるとも考えられる。授業の復習を全くしなかった学生が33名いる一方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は9名にとどまった。授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「特に必要なかった」「何をしていいかわからなかった」「課題でいっぱいいっぱい」などの意見がみられた。大学での学習の技能は、振り返り、繰り返しながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言えよう。学生の意見については「大学生で必要な知識等を身に付けられたと思います」「課題がありすぎて大変でした」との意見が寄せられた。また、特定の教員に対して「意見を全否定する」「威圧的だ」との意見があった。おそらく学生の誤解もあると思われるが、そのような誤解を招くことのないよう、配慮すべきであると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2017年度も、7回1クールの演習を実施し、様々な学習内容に触れる楽しさを損ねることなく、基礎技能について、さらなる向上を目指すことを目的とし、また特に「書く」技能について、重点的に取り組むこととする。前期は「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置き、後期は前期に培った各技能に加えて、「発表する」「討論する」技能の習得を目指す。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎実習	1	通年	選択	いいえ	19

2. 観点･DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，｢受講動機｣なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ ｢学修準備性｣，自由記述の意見など	本科目は1年生を対象とした福祉基礎科目（選択）であり、学生が現場での実習を通して体験的に学びを得るものである。学生の受講動機を見ると「関心のある内容である」（73.7%）となっており、学生の準備性は比較的高いと言える。したがって、今後の学生の実習・学習等に向けた動機づけに深くかかわる科目と認識し、授業運営を行った。具体的には、実習前の学内講義では対人援助職の理解や実習への動機・関心が高まるよう個別指導を行った。また、実習後には個別面接や報告会を行い、実習体験から得た学びや課題を深めさせた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ ｢学修準備性｣，｢学習到達度の自己評価｣，｢学習量の評価｣，｢学修のための情報利用｣，｢図書館，インターネット利用｣，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおける各DP項目から教育目標の達成状況を見ると、「意欲関心」（ＤＰ３）については「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う15.8%、かなりそうだと思う68.4%）となっており、目標を達成できたと考える。「態度」（DP４）は「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う47.3%、かなりそうだと思う47.3%）で、これについても達成できたと考える。「技能表現」（ＤＰ５）は、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う21.1%、かなりそうだと思う68.4%）であり、達成できたと言える。また、学生との実習後の面談や実習報告会等のおいてもこれらの項目に関する学びが多数見られた。 上記に加え、本講義における図書・雑誌の利用状況（「利用した」63.1%）及びインターネットの利用状況（「利用した」84.2%）の結果から、学生の主体的学習態度が見られることから本科目における教育目標は達成されたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ ｢受講動機｣｢学習到達度の自己評価｣，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 意欲関心（ＤＰ３）、態度（ＤＰ４）、技能表現（ＤＰ５）のすべてにおいて教育目標を達成しており、本科目のＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 既述の通り、本科目は福祉基礎科目として学生の実習や学習動機を高めることを目標の1つとしている。学生の到達度自己評価や図書館利用、実習報告会・レポート等の学びからもCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、学生の到達度自己評価からは、本科目における教育目標は達成されたと言える。2016年度は実習期間中に帰校日（1日）を設け、実習中間の振り返りや面談を実施し、指導を強化した。2017年度も引き続きこうした取組を実施する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を履修する学生の学習意欲・関心は総じて高いと言えるものの、1年生75名のうち履修者数は19人にとどまっている。本科目の教育効果は非常に高く、今後、履修人数をさらに増やす働きかけが必要と考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	1	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は1年次を対象とした福祉基礎科目（必修）である。また社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の指定科目でもあり、多くの学生が資格取得に必要な科目として認識している（受講動機「資格取得に必要である」32.3％）。一方で、本科目の内容は初学者である1年生にとってはやや難易度が高いと思われる。したがって、授業は教科書と中心として展開し、単元ごとにレジュメを作成した。また図表・イラスト等も積極的に用いて学生の内容理解を助けるよう配慮した。その他、新聞記事やＤＶＤ等を活用し、学生が今日の福祉問題・課題を身近に感じ、関心を高められるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な試験結果の平均は77.3点であった。昨年度の80.3点よりやや劣るもの教育目標はある程度達成したと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う31.8％、わりにそうだと思う50.7％、かなりそうだと思う17.3％）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそうだと思う24.6％、わりにそうだと思う46.4％、かなりそうだと思う30.0％）が示されている。 一方で授業評価アンケートからは、本講義を通して学生の自発的学習を十分に促すことができなかった事実も明らかとなっており（「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」について「していない」が84.1％、「授業の予習」をしていない42.0％）、昨年度同様の課題が明らかとなった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 試験結果（平均77.3点）や学生の到達度自己評価結果から本科目の教育目標はある程度達成されたと判断でき、ＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 上記で述べたように、本科目は初学者である1年生にとってやや難易度が高いと思われる。その理由の1つとして本科目におけるキー概念が「福祉政策論」（マクロレベルの福祉）となっている点が挙げられる。学生（特に1年生）にとっては対個人への福祉・支援（ミクロレベルの福祉）の方が具体的にイメージしやすく、内容等の理解も容易であると思われる。したがって、ＣＰ・カリキュラムマップ上の位置づけという点では配当年次の検討が必要であると思われる。 ※2018年度カリキュラムより配当年次（3年次開講）及び科目名称の変更を行う予定である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	上記で述べたように、学生の授業評価アンケートからは自発的学習を十分に促すことができなかったという結果が示された。本科目に関わる図書館の利用も低調であり（この授業では図書館の図書、雑誌を利用した」について「利用しなかった」98.5%）、インターネットの活用もできていなかった（授業に関してインターネットを「利用しなかった」95.7%）。授業で提供する福祉の時事的内容や情報提供のあり方に検討が必要と考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1年生にとってやや難易度が高いと思われる本科目であったが、教育目標はある程度達成できたと考える。これにはレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用、コメントカードによる理解度の把握等が有効であったと考える。引き続きこうした取り組みを行いたい。 一方で、学生の自発的学習の促進という点では昨年同様の課題が示された。授業を通して抱いた福祉への興味・関心について、学生自らが主体的に深めていく学習態度をどう培っていくか今後も考えていきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷　修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会学概論	1	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本授業は国家試験の受験科目であるため受講率が高い。しかし、1年生対象ということから国試を見据えた高いモチベーションは期待できない。その一方で、高校までに経験のない科目であり、専門用語の抽象度が高いという意味で学修の準備は十分とはいえない。 授業の手引きなしに事前準備することが難しい内容であるが、できるだけ身近な事例や経験を題材にすることで、日常の中に社会学の視点を持ち込むことができるように努めた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体平均は79.8と非常によい結果であった。 まとめプリントで定期試験の形式を示し、授業内容の復習を自己学習の形で定着させるよう指示したが、多くの学生がきちんと課題をこなしていた。 また、質問に来る学生も、ある程度自分で学習した様子が見られた。 本試験の問題はまとめプリントの丸暗記では対応できず、テキストやレジュメ以外の授業中の説明まである程度理解できていたようだ。 ただし、自由回答を求めた設問ではきちんと文章でまとめることができたもの、図やイラストのみで説明したもの、キーワードのみのもの、まったく解答できなかったものなどに分かれた。理解のレベルに対応しているだけでなく、アウトプットの力も育てなければならないと感じた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	国家試験の受験科目という出口段階で要求される能力に向け、1年次でどのような学習が必要かという観点からして適切に位置づけられている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	平均点が高いことからもう少し発展的な内容まで学習するということも考えられるが、社会理論と社会システムという科目に対する苦手意識を持たせず、学年が進んだ後に授業以外の学習を進める基盤を作るという意味では現状程度の達成度が適切だと考える。 学生から授業で差別的な内容を含んでいたという指摘があった。社会学は本来、差別を社会現象として分析する性質を持っており、恐らく社会階級と階層の比較や学力と貧困の関連あたりの説明をそのように受け取ったのだろう。高校までの授業では避けられてきた差別という社会実態を学問の対象にすることの意味を積極的に確認しながら授業を進めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	点数としては高いが、領域的に不得意なところがいくつか存在する。また、時間的にじっくり取り組むことが難しい部分もあるため、それらが後に苦手領域となる恐れがある。そのような事態を防ぐために、該当部分をわかりやすく解説する教材の工夫と今後の学習につなげるための自己学習のガイダンスを組み込みたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の基盤と専門職	1	通年	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験に関する科目である。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。第一回目の講義時に受講に関しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につなげがるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、1名以外合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が3.6と低かった。必修科目であり、多くの人数が受講する座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討していき、ｈ行続き次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされていない現状であり、利用の仕方からのインフォーメーションを行うことも、引き続きの検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、指導を行いたい。毎時間、予習復習の具体的情報提供を行うことも、今年度以上に続けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。次年度は学術データベースの利用方法等に関して、今年度以上の具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸　美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	通年	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」が96.3%、「資格取得に必要である」35.8%、「関心のある内容である」4.9%、「単位数を確保する」2.5%、「GPAをあげる」1.2%であった。本科目は、社会福祉士国家試験受験科目のひとつてであり、社会福祉士等の実習とも関連する科目である。講義では、ソーシャルワークについて学生の関心が高まるように、テキストだけでなく事例や時事問題を活用した。相談場面に関するビデオ教材も活用し、相談場面のイメージを抱くことができるようにした。また、講義内で確認問題を実施し、理解度を学生本人が確認できるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	再履修者はおらず、「知識理解」の平均値が約27点（30点満点）であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均値3.9点であったことから「知識理解（DP1）」は、達成されたと考えられる。今後も、学生が取り組みやすく、関心が高まるような教材などの活用について検討していきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおいて福祉専門科目のひとつであり、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格の必須科目であると同時に、卒業に関わる必須科目である。再履修者もなく、多くの学生が標準レベルに達していることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：思考判断（DP2）、技能表現（DP5）は、「やや達成された」にとどまったが、多くの学生が標準レベルに達していたことからDPにおける内容の妥当性に問題はないと考えらえれる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.5点と他の項目に比べ低かった。事例などを提示し、となりに座っている友達と意見を出し合う機会も設けいていたが、十分な時間がとれていなかったと考えられる。今後、事例などを用いるときには、考える時間を確保し、学生が主体的に授業に参加できるように工夫する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全ての学生が標準レベル以上に達したと考えられる。次年度の講義では、事例などを用いるときには、考える時間を確保し、学生が主体的に授業に参加できるように工夫することが課題である。また、約6割の学生が予復習の時間を確保しておらず、図書館の利用については9割以上の学生が利用していなかった。今後は、予復習として取り組むべき課題を具体的に提示していく必要がある。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋　典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	109

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」が93.3%を、「資格取得に必要である」が28.1%を占め、「関心のある内容である」は2.2%にとどまっている。この科目は1年次「相談援助の基盤と専門職」、2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時に「相談援助の理論と方法Ⅱ」では難度が高くなり、これまでにこの科目に関心があった学生すら学習意欲が低下したり、理解が困難になる可能性がある科目であるため、ソーシャルワークを学ぶ上で、なぜこのような内容の理解が必要であるのかということ、今学んでいることがソーシャルワーク実践にどのように位置づけられるかということを伝えることに努めた。 また、そのための手法として、実践事例を用いた解説や視聴覚教材の活用を積極的に取り入れた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期試験の平均点71.3点から、後期試験は平均点80.2点まで上昇した。前期末の時点で再試対象圏内にいた学生は22名だったが、後期試験ではそれぞれが大きく取り戻すことができ、最終的に再試対象者は3名であった。多くの学生が後期の授業では前期以上に意欲的に取り組むことができた。その様子は毎回の授業で提出を課していたリアクションペーパーの内容からも見ることができた。学習到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」において「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」が0%であり、他の項目においても「全くそうでないと思う」が0%、「少しそうでないと思う」が1.1～3.3%にとどまった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①DP，行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、日常の授業での各学生の取り組み、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP，カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次「相談援助の基盤と専門職」および2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時にこれら2科目と比較して難度が高くなるため、これら2科目での学習内容を振り返りつつ、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、総合的かつ包括的にソーシャルワークを実践するための視点と求められる知識を培うことを意識した授業内容と展開を心掛けた。相談援助に関わる関連科目での学びの統合が求められる科目という点から、適切な位置づけである。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値3.4～3.7であり、概ね高い評価を得たと考える。一方、授業の予習・復習を60%～64.4%の学生が全く行っていないことは反省点である。学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成できたと考えるが、学生の学びを深める意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域福祉論	2	通年	必修		88

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	地域における具体的な福祉問題をテキストの学習箇所で紹介し、解説を行いソーシャルワーカーとしてどのように理解し取り組むかを考えられるよう説明した。DP上の評価は僅かな回答ではあったが「分かりやすかった」と自由記述があり、学習の準備についても自主的に取り組み姿勢を伺え成果として判断する。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「学習到達度の自己評価」ではおおむね達成されたと判断する。「学習量の評価」は復習の促しをしたが結果として十分とは言えない結果であった。適宜参考文献の紹介はしたものの図書館利用をした学生は一部を除き「利用しなかった」者が大部分であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	受講動機は「必須科目である」が98.7と高いにも関わらず「資格取得に必要」が27.3である。その差が大きくひらいており、科目の重要性を認識できていないのか不明である。「到達度」についての評価が全般的に低いものの「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が高い評価であったことはDPにおいての成果だと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「学生の参加」や「質問」などに配慮が足りなかった評価をされていたことから今後においては双方向な講義となるよう配慮して行くことにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は十分とは言えないが、対象者そのものではなく地域に暮らす人々であると認識されるまでには達したと判断できる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村　茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障論	2	通年	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、「必修科目である」93.4%、「資格取得に必要である」39.5%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	試験は前期・後期の2回実施した。前期試験の平均点は66.68点（福祉・心理・養護教諭コース2年68.85点、子ども家庭福祉コース2年59.62点）、後期試験の平均点は64.30点（福祉心理養護教諭コース2年66.09点、子ども家庭福祉コース2年56.69点）であった。また、再試対象者は26名、理想的レベル（80点以上）に達した者は13名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.6であり、その他の項目の平均値は3.2-3.5の範囲内に収まっている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低いが、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考える。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考える。②DP，行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値はともに3.7、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.5であった。いずれも2015年度より平均値が上昇している。また、授業以外の学習をしていない学生が、2015年度の9割から、今年度は6割に減少している。これは授業の第1回目に予復習の方法について説明をしたことが奏功したためであると考える。ただ、社会保障制度は非常に複雑であり、授業以外で学生が学習する量を、教員に過重な負担を掛けない程度でいかに増やすかが課題となろう。学生の意見について、「すぐに嫌味を言うのをやめて下さい。イライラします」との意見があった。これは学生が授業の説明を正確に聞いていないか、あるいは誤解に基づくものであると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習を増やすことについての課題が若干あるものの、その他の改善すべき点は特にないと考えている。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は2年次を対象とした福祉専門科目（必修）である。また社会福祉士指定科目の１つでもある。授業は教科書を中心として展開し、単元ごとにレジュメを作成するなど学生の内容理解を助けた。特に法制度改正など国家試験で出題が予想される部分については入念に解説を行うとともに、コメントカードを通じて学生の理解度の把握に努めた。また、新聞記事等を活用し、高齢者福祉に関する最新情報の提供を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な試験結果の平均は78.9点であり、本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う47.7%、わりにそうだと思う39.5%、かなりそうだと思う10.5%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそうだと思う25.6%、わりにそうだと思う48.8%、かなりそうだと思う23.3%）などが示された。 一方で授業評価アンケートからは、本科目を通して知識の修得はできたものの、学生の主体的学習態度の涵養と言う点では課題があることが明らかとなった。例えば、学生が授業の課題以外に学習に取り組んだ割合は9.3%であった。また、授業参加のための準備学習をしていない学生が63.9%、授業の復習をしていない学生が60.1%見られた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 試験結果（平均72.5点）や学生の達成度自己評価結果からも教育目標は概ね達成しており、ＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目でもある。３年次の相談援助実習の領域の１つに高齢者福祉領域があることから、本科目の配当年次に問題はないと考える。また教育目標も概ね達成しており、ＣＰ・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	既述したように、本科目の教育目標はある程度達成したと判断できる一方で、授業評価アンケートからは学生の自発的学習を十分に引き出すことができなかたったことが示された。また予習・復習についても十分に取り組めていない現状が明らかとなった（上記の他に、授業での図書館利用率1%、インターネットの利用率2.3%）。この点では昨年度同様に毎回の授業ごとに予習・復習のポイントを的確に提示し、学生の学習量を担保していく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成したと判断できる。しかし、再試験対象者が6名存在していることや（このうち再試験不合格者は1名）、最終成績の差が大きいこと（最高点95点、最低点36点）から、学生の理解度に差があることが推察される。この点、毎回提出させるコメントカードの内容を踏まえた復習や小テストの定期的実施も必要と思われる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者福祉論	2	後期	必修	はい	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	身近に障害者との出会いがある学生が多くない中、多様な障害について解説し、その支援の制度等を説明することを心掛けた。とりわけ2016年は障害者の大量殺人事件が発生し、これをどう考えるか各界の論文等を配布し、障害者福祉の基盤について、今日の制度等と関連させて学生に問うていった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習の成果はテスト成績による確認となるが、平均点は例年に比して大きな変動はないが、再試験受験者も32%と例年と大きな変動はないが、福祉・心理・養護28%に対して子ども家庭57%で大きな開きがある。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	実習に向けて、学習準備性からも妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	全く出会いのない学生に、障害のイメージを十分に理解させることは困難であるが、できるかぎり理解を深めることができるように視聴教材や時々のトピックスを含めて解説した。次年度も継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講学生全員が障害者福祉について概ね理解できるよう制度論の解説だけにとどまることがないいように、関心もって授業参加できるように進めたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村　茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
権利擁護論	3	後期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」82.7%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	後期試験の平均点は67.87点であった。再試対象者は20名、理想的レベル（80点以上）に達した者は22名であったことから、理解できた学生とそうでなかった学生とで成績が二極分化している。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.5、ほかは3.2-3.4の範囲内にほぼ収まっている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低いが、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考える。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考える。②DP，行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.3であった。また、授業以外の学習をしていない学生が約6割に上っているが、授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかった」、「忙しかった」との意見が見られた。他方、「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」として、「動画を見た」、「レジュメの見直し」という記述も見られた。成年後見制度を中心とする権利擁護に関する制度およびこれらの前提となる民法等の法律は非常に複雑であり、授業以外で学生が学習する量を、教員に過重な負担を掛けない程度でいかに増やすかが課題となろう。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が2.9とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学生の意見について、「もう少し分かりやすく説明してほしかったです」という意見があった。上記の通り講義内容は非常に複雑であるので、講義だけで完全に説明しきれないことも想定されるが、予復習や質問など、講義時間以外においても積極的に学習する姿勢を見せてほしい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習を増やすことについての課題が若干あるものの、その他の改善すべき点は特にないと考えている。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	西崎　緑

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際社会福祉論	4	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	４年生の受講科目ということから、福祉関係の就職で出会うであろう外国人のクライエントや同僚との関係を円滑にできる知識を持つことに重点を置いた。受講動機として、学生たちは、外国の福祉に興味を持っていたので、具体的な制度体系だけではなく、人々の考え方や文化にも触れる講義を行った。パワーポイントや動画を用いたので、より分かり易くなったと思う。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	少数の受講ではあったが、学生たちは、授業に積極的に参加し、授業時に課した小コメント、レポートも十分に評価できるものであった。受講生の授業への感想も、諸外国の福祉および国内にいる外国人の生活困難がよく理解できたとしていたので、授業の目標は十分に達成できたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	DPに個人や社会の福祉課題について的確に把握し、支援の方法を検討できる、という項目があるが、難民等の諸外国の課題や、国内における外国人の生活困難についても理解できたので、内容的には妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業で動画等をもちいて理解を促進できたと考えるが、できる限り最新の情報に更新していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	国際的視野に立って、福祉課題を考えるようになるという、本講義の目標は十分に達成できた。出来る限り、最新の情報、さらに取り扱うことができなかった国々に関する情報を追加して、次回以後の講義に生かしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	櫻木　美穂子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅰ	4	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	×	〇	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	実技や体験を通して高齢者・障害者の体験をしたり、当事者の話を聞くことでより高齢者や障害者のことを理解してもらう。合わせて福祉用具のことを理解し、その効果や有用性に気づいてもらうようにした。 最初の授業で評価方法や課題を説明しそのための準備を促すようにしている。また授業ごとに質問や感想を述べる時間をつくることで気づきの共有を促し、理解を深めるようにしていた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講学生の成績の最高が95点、最低が７５点、平均点が86.4点であった。 全員が自発的にこの講座を選択し受講しており、授業態度も積極的であった。 また各講義の後のミニレポートは全員提出されていた。内容もほぼ授業の目標を理解していた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	体験や実習、当事者の話を聞くなどの授業の中で、今まで他の授業で習ってきたことをより具体的に意識し、身近に感じることができる。 また福祉用具がどのように当事者の生活や介助者を助けるのかを考える時間となる。 自分で福祉用具を考える中で広く身の回りの世の中や世界を知る機会となる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	会場利用や他部署との調整のため授業の順番が入れ替わり受講内容に戸惑いを与えた部分もあったかもしれない。また4日という短期間で行うため学んだことの振り返りや課題作成の時間が十分とれなかったと推察する。そのためどうしてもインターネットからの情報収集が多くなり個人の学びに限界を感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	現在の講座の課題についてはおおむね目標を達成していると考えるが、より高齢者・障害者の理解と福祉用具の活用についての理解を深めるため、内容を精査しより細かい課題設定を行うこと。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅱ	4	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉の制度・政策の最新動向を教授するものであり、教員5名のオムニバス形式で行っている。講義では、国家試験の内容を強く意識し、出題が予想される内容や学生の理解度が低いと思われる内容について丁寧に説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の成績は平均81.2点となっている。また、学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」（まあまあそう思う62.5%、わりにそうだと思う29.2%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う58.3%、かなりそうだと思う20.8%）となっており、教育目標は達成できたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 試験結果（平均81.2点）や学生の到達度自己評価結果から本科目の教育目標は達成されていると判断でき、ＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 上記で述べたように、本科目は国家試験対策の意味合いも兼ねた内容となっているものの、夏休み開講ということもあり、受講生数は少ない状況となっている（実習で履修できない学生が多い）。ＣＰ・カリキュラムマップ上の位置づけという点では検討が必要であると思われる。 ※本科目は2018年度カリキュラムより廃止となった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、本科目は教員5名によるオムニバス形式をとっている。各担当の授業進行自体は特に問題はないと考えるが、準備学習の提示の有無、内容・方法等について、教員間でばらつきが見られた。この点について、担当教員間で開講前に協議するなどの対策が必要と思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は達成されている。しかし、既述の通り、開講時期に課題があると考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	嶋村　美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	×	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機は、「必修科目である」が全員、「資格取得に必要」が2人、「単位数を確保する」が2人、「友人が履修している」が2人となっている。②主体的参加を求める演習科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、演習の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。　③授業の実施については、できる限り毎コマにグループワークを設定して、話し合いや具体的場面を設定してのロールプレイなどを導入した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、平均８５．３３点と高めだった。最低点７７点、最高点９５点である。授業への参加状況は欠席もほとんどなく積極的な参加ができていた。提出物も、全員が満たしている。発表の評価も概ね全員が標準に達していて、３名が理想的レベルに達していた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	相談援助演習の入口としての位置づけである。対人援助にかかわる援助技術の理解と必要性について、社会福祉士の活動の場や職域の理解、面接技術の理解についての内容を含んでいる。内容的妥当性があると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の中で、自分の意見をまとめる話し合う、発表するなどの機会、学生の質問を受け付け答える機会の項目は「そうだと思う」人が多数で高い評価でだった。こちらの教育目標が学生へも伝わり、機会を設けて主体的参加を促すことができていたということだと評価している。職業倫理や、行動規範について学べなかったと答えが学生が1名いた。来年度の授業内容に、この理解がさらに深まるような内容を含めていくことを検討する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	図書館の利用、課題以外の学習への取り組みを行った学生がほとんどいなかった。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるよう授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修		13

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	入学し半年が過ぎ、基礎的な学習を経て来てはいるものの、社会事象を見聞きすることがこれまでとは随分と違って来ていると思われる。グループで、個人で調べる作業をさせたため「学習の準備」としてインターネットの活用を積極的に行っていたことが伺えた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「達成度」はいずれも3,5以上で高い評価であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	「受講動機」は「必須科目である」が100%ながら、「関心のある内容」は半数以上であった。DPについても3.5以上の評価であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	考えさせることを主眼においていた。「授業以外に具体的に取り組んだ学習」として紹介した書籍を読んだと意見を出している者がいたことは評価したい。情報の取り方は結論だけを得ることに積極的だが、インターネットの活用をうまく利用させるなど今後の指導課題と思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては達成されたと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	13

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	相談援助（ソーシャルワーク）の専門家として基礎的に必要とされるスキルについて、1年生が教員別グループに分かれ、参加型、体験型の演習プログラムを中心として行う講義である。毎回小テーマを設定して、そのテーマを習得できるように演習を通じて学ばせる。１年生として、相談援助の基本としての、対人接触サービス業を目指すものとしての、必要なものを習得できるよう工夫した。特に自分を表現し、人との関係性を作ることを目的として、とりわけロールプレイ的な要素を導入して、個人や集団になってかかわりを持たせるように工夫した。初回講義の時には、この講義で何をするかということを、１５時間分毎にまとめ、ペーパーにして配布し説明した。ヒューマンサービス基礎演習と同様に、心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する党の再確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を設け、文章にて表現させた、

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	まずもって欠席が限りなくゼロに近いということで、学生の意識をしっかりと受け止めたと考えられる。また、リアクションペーパーの中でも、前期のヒューマンサービスと少し違うけど、楽しい講義の一つという内容のものが多かった。当然それだけではいけないので、毎回振り返りを教員と学生と一緒に行って、必要性を高めた。最終的には全員が学んだことをまとめることができ、理想的レベルまで達成できたものと考える。講義時間内だけのものになった感じが見受けられるので、更なる工夫として、現実社会の中でのリアルな状況設定を取り入れることも検討したいと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、専門基礎科目でもあり、1年生の福祉、とりわけ対人接触サービスを行う専門職としての相談援助職を目指すものとしての導入的講義として、関係性の重要性を理解すること、そのことを体験として学習してくことを考えていけば、学生からの評価や、最終報告から見ても、内容としては十分に妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても、コミュニケーションスキルの重要性、協力するためのスキルの獲得もできていると感じることから、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、全て中央地より高い点数であった。評価の方法については、初回講義時にインフォーメーションしているのであるが、幾度か評価についての確認を講義途中で入れていくということを、途中でも入れていきたいと思う。また、「授業の課題以外に学習していない理由」で、「何をすればよいかわからなかった」という回答が複数あった。具体的に社会の中での状況を話して行き、リアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを、引き続きしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	繰り返しになるが、大学に入って１年目に開講する、ヒューマンサービス基礎演習と同様に、相談援助職を目指していくものとしての理解と能力を高めるための、非常に重要な講義だと思う。本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパーや、最終講義のときに個別報告によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。講義内容もシラバス通りに進行した。次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代と共に求められる相談援助の力量も変遷をしていくと考えられるので、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山　久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた最も基礎的な知識・援助技術を学ぶ演習科目である。初年次の学習のため、社会福祉や社会福祉士の仕事への関心を高めることと、社会福祉にかかわる課題や課題を抱える人々に向き合う際の姿勢や考え方を身に付けることを目標に授業を展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%であり、「資格取得に必要である」が18.2%に留まる。また「関心のある内容である」が0%、「単位数を確保する」が18.2%であり、社会福祉を学ぶモチベーションの低さがうかがえる。このことから社会福祉や社会福祉士の仕事への学生の関心を高めるため、できるだけ社会福祉実践に携わっている人の話に直接触れる機会を設けることとした。今年度は九州の学生にも身近となった災害時支援をテーマとして取り上げ、被災地での支援を行った人などをゲストに招き、災害時のソーシャルワークを通して福祉的な関心を高めることを試みた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は82点、中央値85.5点であった。点数の開きが大きかったものの、3/4の学生が8割以上の成績を修めており、概ね目標は達成されたと考える。学生の学習到達度の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.1であった。また目標の1つである福祉的関心を高めるという点については、DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.2であり、基礎的な援助技術を身に付けるという点では、DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が4.2、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.5であり、これらの点で目標は概ね達成されたと言える。ただし「職業選択の参考になった」の平均値は3.9、中央値は3.5となっており、社会福祉士の仕事への関心を高めるさらなる工夫が必要である。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. にも記したように社会福祉・社会福祉士への関心を高め、社会福祉に関する基礎的な知識や考え方を身につけるという目標をある程度達成できたという点で内容的に妥当であったと考えられる。　②DP、行動目標からみての内容的妥当性 4. に記したように内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.1-4.6であった。特に「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」については平均値4.6と高かった。演習系科目であるため当然の結果であるが、学生のふり返りシートを授業時にフィードバックし、全員で共有しながら理解を進めていく機会を設けるなどした。今後もこの取り組みを継続していきたい。学習量の評価を見てみると、4，5回以上の予習をした学生は25%、4，5回以上の復習をした学生も25%にとどまった。さらに自発的学習をうながす努力が必要である。ただし、「図書館の図書、雑誌を利用した」学生は58%、「学術データベースを検索し、利用した」「インターネットのホームページを検索し、利用した」学生は50%であり、課題への取組みとして、図書館利用を促すことができたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置づけられている。4．に記した学習達成度の自己評価、6．に記した授業の質評価より、概ね授業の目標は達成されたと考える。受講動機に記したように、初学者に対する社会福祉への関心を高めるような取り組みは今後も重要であると考える。より実践的な内容を取り入れたり、学生が身近に感じられるようなタイムリーな話題を取り入れたりしながら授業を展開していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山本　佳代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	専門職である社会福祉士についてより理解を深められるよう、①社会や地域で起きている福祉的課題・問題の実情や背景、それらを抱えた人々（当事者）、②社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、③社会福祉士としての価値・倫理、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術について、ロールプレイやグループワーク及びグループ討議などを交え体験的に学べるよう工夫した。具体的には、グループ討議で、新聞記事から話題（ホームレス支援の現状など）を選び、より身近な出来事として捉えられるような工夫や、ボランティアの場を設け、実際の関わりから学びを深められるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価(1)「自分なりの目標を達成した」、3.9以外は、全て4以上だった。全ての学生が標準レベル以上に達したと考えられる。また、図書館やインターネットの利用についても数名の学生が利用しており、自主的な学びにつながったと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、社会福祉の基礎を学び、意欲関心を持って次の学年へとつなげていくことを目指したい科目である。受講動機は①「必修科目である」が100%であるが、到達度自己評価(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.4であり、内容的妥当性について問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.4と高く、グループワークやプレゼンテーションを繰り返し経験したことが、一人ひとりの力を促進させたと考える。一方、図書館やインターネットを利用しなかった学生もいるため、意欲的に予習復習に取組めるよう工夫していくことが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績と到達度自己評価の結果から、概ね目標は達成できたと考えられる。今後もグループワークを積極的に取り入れ他者と意見を交換し、協力しながら課題に取り組めるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅳ（３年次前期）及び相談援助演習Ⅴ（３年次後期）と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（72.2%）が見られ、社会福祉士取得を強く意識した受講がうかがえる。一方で「関心のある内容である」（5.6%）となっていることから、授業内容や展開等を工夫し、学生の関心・意欲等を高める必要性があると考える。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体の成績は平均81.5点であり、この点では教育目標を達成したと言える。各ＤＰ項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（ＤＰ１）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができてた」（わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う22.2%）であり、ある程度達成したと言える。思考判断（ＤＰ２）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う16.6%）であり、ある程度達成できたと言える。「意欲関心」（ＤＰ３）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う44.4%、かなりそうだと思う16.7%）であり、ある程度達成できたと言える。「態度」（ＤＰ４）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う38.9%、かなりそうだと思う11.1%）であり、教育目標を十分達成できたとは言えない状況にある。「技能表現」（ＤＰ５）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う38.9%、かなりそうだと思う16.7%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う27.8%、かなりそうだと思う5.6%）となり、これも教育目標を十分達成できたとは言い難いと考える。 以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況からは、今後、学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 全体の成績（平均81.5点）を見るとDP上の位置づけに問題はないと考える。しかし、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の点では課題があると考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは3年次開講の相談援助実習の展開において不可欠であり、本科目のＣＰおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	上記で述べたように、学生の自発的学習や図書館利用の状況から、学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。具体的には授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは「していない」（83.3%）が見られた。また「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては全員が「利用しなかった」と回答している。学生の関心・興味を引き出す授業展開について、さらに各教員の教授内容や方法の現状を見直し・改善する必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、全体成績という点では本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。しかし一方で、学生の到達度自己評価の結果からは各DP項目の達成について課題があると言える。本科目は教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択		17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	事例集を読ませ行間に隠れる当事者の思いや援助者の考え方についてを学生一人ひとりに想像させる形式を用いた。「受講動機」は「必修科目」であるからが70.0%、「資格取得に必要」と答えた者が40.0%であった。医療の事例であったことで関心が薄かったのか自分の進む方向性あが違うと判断したものなのかわからないが、「自分のためになった」とコメントをする学生がいたことは評価できると思われる。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度はいずれも高い値を示していた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	DP達成度はいずれも3.5以上の高い評価で、学習の成果だと判断する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	レポートの評価について「基準が明らかでない」とする者がいた。今後は学生の納得の行く基準としたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	一応の成果はみられたと判断する。実習や将来の就職に役立ててもらいたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	グループ別学習の最初の授業であるが、7回・8回とグループが異なるが、各課題を提示し、学生主体て準備、プレゼンテーションを実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	相談援助の専門分野に特化した課題を教材にソーシャルワークの共通内容を身に着ける授業である。学生の自己評価はややばらつきがあるが、概ね達成できたと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	相談援助の実習と関連づけられ、妥当と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の到達目標が概ね「わりとそう思う」以上まで到達できるように動機づけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は、授業のプレゼンテーションやその時のオーデエンスの学生の反応及びレポートに依存するが、各回で学生にフィードバックする際、留意点や改善点の指導を強化することで更に学習効果が高まるように努めたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸　美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」57.1%、「資格取得に必要である」64.3%、「関心のある内容である」21.4%であった。本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指いしている。具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、グループワークも実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	再履修者は0名であった。達成度自己評価では、全ての項目において平均値が4点以上であった。特に、本科目における学生が到達すべき行動目標と関連する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」は、平均値が4.3点であった。これらのことから、全ての学生が標準レベル以上に達しており、教育目標は達成されたと判断した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、全ての項目の平均点が4.1点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られいていた」は、平均値が4.9点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.4点であった。本年度は、インターネットからの情報だけでなく、図書や雑誌などを学生が活用できるような課題を提供することを課題としたが、利用した学生は50%であった。次年度も図書や雑誌などを学生が活用し、学生が積極的に学ぶことができるよう工夫する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価アンケートの結果から、教育目標を達成することができたと考えられた。到達度自己評価および授業の質評価の全ての項目において平均値が4.0点以上であったことから、本年度の内容を継続して実施し、さらに、学生の習得状況に応じた課題を提示していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点･DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること, 重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し, 授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は, これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」, 自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅲ（２年後期）及び相談援助演習Ⅳ（３年前期）と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（60.0%）が見られ、相談援助演習Ⅲと同様に、社会福祉士取得を強く意識した受講がうかがえる。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は, 該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として, 成績(トータルの成績, 行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」,「学習到達度の自己評価」,「学習量の評価」,「学修のための情報利用」,「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など	全体の成績は平均76.6点であり、この点では教育目標をやや達成したと言える。各ＤＰ項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（ＤＰ１）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができてた」（わりにそうだと思う53.3%、かなりそうだと思う6.7%）であり、やや達成できたと言える。「思考判断」（ＤＰ２）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う53.3%、かなりそうだと思う6.7%）であり、やや達成できたと言える。「意欲関心」（ＤＰ３）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う53.3%、かなりそうだと思う6.7%）であり、やや達成できたと言える。「態度」（ＤＰ４）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う46.7%、かなりそうだと思う6.7%）であり、あまり達成できなかったと考える。「技能表現」（ＤＰ５）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う40.0%、かなりそうだと思う6.7%）、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」（40.0%）、かなりそうだと思う」（6.7%）となり、教育目標はやや達成できなかったと考える。 以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況から、今後は学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 全体の成績は平均76.6点であった。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、「態度」（ＤＰ４）と「技能表現（DP５)において教育目標の達成がややできなかったものの、その他のＤＰではある程度達成されており、ＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらは当該学年で履修する相談援助実習の展開において不可欠となるものであり、本科目のＣＰおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（93.3%）が見られた。また、「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては、「利用しなかった」（86.7%）が見られ、本科目において学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。引き続き学生の関心・興味を引き出す授業展開を検討する必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標の達成という点では課題があると考える。本科目は教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	後期実習を挟み実践場面を経験したところから援助の視点が拡がりを感じられるが、更に気づき足りない点を構造化できればと演習を進めた。受講動機で「必修」だからとするものは78.6%であったが、「資格取得に必要」と答えた者が50.0%と学生が実習などでの経験を通して援助の必要性に気づいてくれているものと「学修準備」にも図書館の利用やインターネットの活用などに多くの回答をしていることで伺うことができた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について高い評価が得られた。また、図書館利用においても評価は少なかったものの自主的な取り組み姿勢が伺えた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」「授業の質評価」いずれにおいても高い評価であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「図書館、インターネット利用」をする学生の数が少ないものの、僅かでも自主的な取り組み姿勢は評価できると考える。調べることも含め、課題の提出など事前学習、事後学習に結び付ける改善を行っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総じて達成されたと考える。今後においては、一人ひとりからの疑問や質問について何らかの形で関りを持ちたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目の共通内容に沿って、授業を実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の評価も概ね達成できたとしている。前半、後半グループが分かれ7回・8回の授業であり、その間の評価である。演習としては最後の内容になり、また分野が指定されているので評価はレポートと演習での学生のコミュニケーション等に依存する。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	相談援助の実習と関連され、妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	指定された学習内容に沿って授業を進めていくため現状を維持したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生のモチベーションによって達成状況が異なるが、導入の際にモチベーションを高めることができるように導きたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸　美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」78.6%、「資格取得に必要である」64.3%、「単位数を確保する」7.1%であった。本科目は、本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指いしている。具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、グループワークも実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	再履修者は0名であったことから、全ての学生が標準レベル以上であったと考えられる。到達度自己評価では、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は、平均値3.9点であった。しかしながら、「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は、平均値が3.5点であった。これらのことから、学生の目標達成状況の思考判断(DP2)は「達成された」、その他は「やや達成された」と判断した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつくられていた」は、平均値が4.0点以上であった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」は、平均値3.9点であった。また、約6割の学生が予習を行っていた。次年度は、評価基準の提示や説明の仕方を工夫するとともに、図書や雑誌などを学生が活用し、学生が積極的に学ぶことができるような課題を提示する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	再履修者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上であったと考えられる。本年度は、到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が他の項目と比べ低かったことから、振り返りシートを活用し、学習の習得状況を確認する。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋　典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習（3年次）」の実施に向けた準備段階と位置づけられる。学生の受講動機は「資格取得に必要である」が73.7%であった。実習生として求められる姿勢を養い、実習領域で求められる知識・技術を高めると同時に、実習に向けての動機づけが高まるよう、現時点で取り組むべき課題を明確化するためのグループワーク、その課題に取り組むためのグループ学習などに重点をおいて授業を展開した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の学習到達度自己評価においては、各項目の平均値が3.7～4.2、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答した学生が各項目において57.9%～89.5%と比較的高い評価となっている。一方、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の項目に「全くそうでないと思う」との回答が1件あり、見逃せない数字である。3年次の「相談援助実習」に向けて動機づけを高めていくことが求められる科目であることから、改善すべき点を洗い出し、対処したい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①DP、行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、学生の到達度自己評価からDPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP，カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は3年次の「相談援助実習」の実施に向けて展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、準備学習を深めていくものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては平均値4.1～4.5となっており、比較的高い評価が得られた。本科目においては学生が主体的に学ぶ姿勢が問われるが、授業に参加するための準備を行ったものが89.5%に対し、復習を行ったものは57.9%と少なかった。また、自発的学習に取り組まなかったものが89.5%であり、明確な課題に対しては取り組むことができるが、主体的に学びに向かう態度を十分に引き出せていない状況であることがうかがえた。授業以外にも主体的かつ積極的に学習を進めるような姿勢を養い、実習への動機づけを高められるよう、さらに工夫を重ねていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、実習への動機づけや主体的学習態度の形成においてさらなる改善が必要であると考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の実施に向けた準備学習としての位置づけられる。学生自身も本科目のこうした位置を認識していると思われ、授業評価アンケートの受講動機は「資格取得に必要である」（85.7%）と高い割合となっている。 本科目では高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。既述の通り、本科目が実習に向けた準備学習であることから実習領域・施設、利用者理解が深まる教授内容とした。また、授業の展開ではグループワークを多く用い、学生間の相互交流により実習への動機が高まるよう意識した。さらに、視覚教材の活用や見学実習を行うことで、実習のイメージを具体化できるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	担当した高齢者・地域福祉領域（29名）の成績は平均84.2点であった。各ＤＰ項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（ＤＰ１）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができてた」（わりにそうだと思う55.2%、かなりそうだと思う31.0%）であり、目標を達成したと言える。「思考判断」（ＤＰ２）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う34.5%、かなりそうだと思う20.7%）となっており、目標をやや達成できなかったと言える。「意欲関心」（ＤＰ３）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う41.4%、かなりそうだと思う27.6%）であり、やや達成できたと言える。「態度」（ＤＰ４）については「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う34.5%、かなりそうだと思う24.1%）となっておりやや達成できなかったと言える。「技能表現」（ＤＰ５）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う31.0%、かなりそうだと思う27.6%）、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」（41.4%）、「かなりそうだと思う」（17.2%）となっていることから目標をやや達成できなかったと言える。 以上、全体の成績評価が高い一方で、DP項目及び主体的学習態度（本科目での図書・雑誌の利用率75.0%）などの点から、総じて教育目標の達成は十分でないと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、思考判断（DP２）と態度（DP４）、技能表現（ＤＰ５）において教育目標が十分に達成されなかったものの、本科目のＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は3年次に実施する相談援助実習の準備学習として、実習に必要な知識・技術や態度を修得するものである。本科目のＣＰおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年度と比べて教育目標の達成は不十分であった。今後は学生個々の理解度や学習の進捗状況の把握を十分に行い、授業を展開していきたい。また、学生が図書館を積極的に利用するなど、主体的な学習態度の涵養と言う点でも昨年度に比較し、課題が残ったと考える。学生の学習意欲を高め、実習への動機が高まるよう取り組みたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、本科目における教育目標の達成は十分でなかった。本科目は実習への準備・事前学習としての位置づけにあり、実習への動機や実習態度に直接関わってくる。積極的に改善を図りたいと考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	実習の領域を選択して受講しているためか「必修科目」「資格取得」の回答者が共に6.3であった。実習先やそこで行われることの具体的なイメージが掴めていないため、ビデ視聴や現場でのことを多く話し、何をするのかを理解できるようにした。「学習の範囲や課題は明らかであった」が4.1と最も高かった。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.2と最も高く良かったと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	受講動機については「必須科目」「資格取得に必要」がともに63.6。到達度自己評価も達していると判断する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」については講義中心であったために低い評価であったことは反省点である。図書館利用について数名の自主的な学習を行っている者もいたことは主体的な取り組みをいていると評価できる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先についてのイメージが出来ないことを思うあまりに自主的な取り組みをさせることが無かったと反省する。今後は、個人若しくはグループで自主的な取り組みをさせるようにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当し、実習前指導では実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の修得を通して実習への動機を高めた。実習後指導では個別面談やケース検討会、実習報告会を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	担当した高齢者・地域福祉領域（23名）の成績は平均79.6点であった。各ＤＰ項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（ＤＰ１）は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができてた」（わりにそうだと思う34.8%、かなりそうだと思う47.8%）となっており、目標を達成したと言える。「思考判断」（ＤＰ２）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う43.5%、かなりそうだと思う26.1%）となっており、目標をやや達成できたと言える。「意欲関心」（ＤＰ３）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う60.9%、かなりそうだと思う17.4%）であり、目標をやや達成できたと言える。「態度」（ＤＰ４）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う56.5%、かなりそうだと思う17.4%）となっており、目標をやや達成したと言える。「技能表現」（ＤＰ５）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う56.5%、かなりそうだと思う17.4%）であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」（47.8%）、「かなりそうだと思う」（17.4%）となっていることから目標をやや達成できたと言える。 以上、本科目における教育目標は総じてある程度達成されたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＤＰ上の位置づけ 全体の成績は平均79.6点であった。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、すべてのDP項目において「達成された」または「やや達成された」となっており、本科目のＤＰ上の位置づけに問題はないと考える。 ②ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助実習の実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のＣＰおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本科目における実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（78.3%）が示された。一方、授業にあたって「図書館を利用した」（65.2%）、「インターネットを利用した」（82.6%）が見られた。こうした結果から図書やホームページ等のネット情報を具体的に提示することで、学習意欲を高めることができると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。しかし既述の通り、実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点では課題が明らかとなった。また、相談援助実習指導Ｉと同様に、今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」が44.4%、「資格取得に必要である」が63.6%であったが、医療における社会的な問題に困る人々の生活課題を解決調整する意味について感じ、考えることを学生らに求めたことから、実習での経験で随分と成長したと評価できる。 ①医療機関での実習に必要と思われる知識と技術について参考資料の提示と講義を行った。 ②配属については、前・後期それぞれ2週間のストレスを考え、実家若しくは一人暮らしの場所からの通いを配慮した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、平均値が3.6以上であり教育目標は達成されたと考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.0以上を得ている点は学生自らの成長から伺える。 ②図書館の利用が少なく、インターネットの利用は高い傾向にあるが、主体的に調べる取り組みは評価できる。 配属先の情報については、学生各自で過去の先輩らが同じ施設で実習した時の資料を参考にしたり、インターネットなどを活用し調べさせるように指導した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.2と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.1と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね、実習指導に基づき行うことが出来ていると思われる。実習先となる医療機関は、他の領域と名時扱いではあるが、生命を専門職との協働によって緊張感のもとに成されていることを自覚し実習に取り組んだ成果として学生らの成長から評価できると考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋　典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習」のスーパービジョン、及び事前指導・事後指導を行うものである。児童福祉領域（児童養護施設・障害児施設を含む）での相談援助実習を通して、相談援助の知識・技術を実践的に体得し、社会福祉士として求められる総合的に対応する力を高められるよう事前指導、事後指導を展開した。事前指導においては、実習施設で求められる援助技術や知識の習得とソーシャルワークの視点の形成、実習中及び実習後指導においては実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようスーパービジョンを実施することを心掛けた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の学習到達度自己評価においては、DP1（知識理解）のうち「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」への回答において「かなりそうだと思う」0%、「わりにそうだと思う」43.8%、「まあまあそうだと思う」50%、「少しそうでないと思う」6.2%と、他の項目と比較して低い自己評価にとどまったことが目立った。特に実習後のまとめにおいて、自らの経験したことを伝えるときそれにふさわしい言葉を見つけることに苦労したことから「まだまだ知識が十分でない」と一人ひとりが痛感したことを反映しているのではないかと考えるが、そうであるとするならばこのまとめの過程を通して「事象を理解する視点や考え方を得る」ことができたと評価することもできると考える。他のGPに関する自己評価項目においては、いずれも「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」を選択した学生はおらず、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択した学生が68.8%～87.5%であった。なお、全般的評価「自分なりの目標を達成した」においては、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択した学生が100%であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①DP、行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、学生の到達度自己評価からDPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「相談援助実習」と連動して展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけ、事前学習、学びの整理を行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては平均値4.1～4.3となっており、比較的高い評価が得られた。本科目においては学生が主体的に学ぶ姿勢が問われるが、授業に参加するための準備を行ったものが81.3%に対し、復習を行ったものは56.3%と少なかった。自発的学習に取り組まなかったものが50%であり、主体的に学びに向かう態度を十分に引き出せていない状況であることがうかがえる。授業以外にも主体的かつ積極的に学習を進めるような姿勢を養い、実習への動機づけを高められるよう、各自の実習課題と実習前までに到達すべき課題を明確にすることなど、さらに工夫を重ねていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、実習への動機づけや主体的学習態度の形成においてさらなる改善が必要であると考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	嶋村　美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉に関する制度とサービス	1	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が８／３０人おり、「資格取得に必要」が１４／３０人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるが、資格取得に必要との認識をしている学生が少ない点が気になる。授業内でも資格取得に必要な科目であることを意識するような内容を含めていき、国家試験受験へのモチベーションを高めていく必要があると思われる。②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は８０．３０点であった。試験を欠席し、最終的に退学となったものが1名含まれているため、実際に試験を受けた学生の平均値はもう少し高い。理想的レベル（９０点以上）に到達した学生は６名、８０点以上は１９名と、全体的な到達度は達成されたと考えている。意欲関心に関しては、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、１年後期から始まる精神保健福祉士コースの最初の科目である。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるが、他の資格と迷っている学生も受講していた。精神保健福祉に関しての興味関心を広げるように講義の前半は意識して行った。そして資格を取得した後の専門職になった時に必要な法律や制度に関して、また、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、２年次の精神障害者の生活深淵システムや援助技術系の科目へとつながっていく入口の役割がある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価においては、授業の質評価の中で、テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった、期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったの二項目で、少しそうではないと思うと回答した学生が各１名いた。第１回目のコマで授業の評価については、説明をしているのだが、届いていないということもある点を頭に入れておく必要があることがわかった。次回からは、もう少し時間をかけて、また頻回に説明する機会を設けることとしたい。そして授業以外の学習に関して０回の学生が２２名だった。文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んでいく必要がある。　授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点３．６で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でてきていると思われる。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	嶋村　美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が１４人おり、「資格取得に必要」が３２人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。　③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は８６．８６点であった。再試対象はいなかった。理想的レベル（９０点以上）に到達した学生は１３名、８０点以上が２０名であり全体的な到達度は達成されたと考えている。意欲関心に関しては、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、１年後期から始まる精神保健福祉士コースの制度系科目履修後の相談援助技術の総論である。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるため、資格を取得した後の専門職になった時に必要な知識や理解、興味関心を広げ、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、３年次開講の援助技術系の科目への橋渡しとなっている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	より多くの機会を設けて、文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。　授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点３．３で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1，2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行ったり、後期のみの講義で、30コマあること（週に２回）から学習状況確認のために、16回目に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が約3割を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格は取得し国家資格も取得するけれど、精神方面には進まないという学生の受講もあったが、障害福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が3.7と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を、引き続きの検討とし、次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォーメーションを行うことも、引き続生き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、今年度以上に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行い、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととしたい。また、他の精神保健福祉の関連講義等につながるような意味合いを含めて講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習に関して、今年度以上の具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮をして講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、とても楽しい15回でした、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が4.0と、比較的に低かった。その場面設定は行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行ったが、2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、引き続き次年度以降の課題としたい。また、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多かったが、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなく、次年度は利用の仕方からのインフォーメーションを行うことも、引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、今年度以上の具体的に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復讐も含めて講義を進めていくことした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習、学術データベースの利用方法に関しても今年度以上の具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	嶋村　美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が12/15人おり、「資格取得に必要」が10/15人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の自己評価を見ると、概ね達成したと答えた学生が多い。医療実習前後の演習という位置づけであるため、実習に向けての職業倫理や行動規範について学ぶことができたと答えた学生も多く、概ね全体的には達成できたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	３年次の通年の演習であり、医療機関実習に出る事前指導及び実習後の指導も含めた演習である。精神障害者の理解や法律及び制度の理解を含めて精神保健福祉的課題へのアプローチを行うものである。精神保健福祉援助実習Ｉへの準備と事後指導という位置づけであり、内容として妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目について平均点４．５だった。できるだけ主体的に学生が取り組めるように環境を整えていき、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマが多く、グループワークが展開できるような演習を意識して行っていたための評価であると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でてきていると思われる。学生相互のやりとりなどグループワークを進めている授業であり、司会や記録も学生が行うようにしているため、自身の意見や発表などの機会が多く設定できている。さらに授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.9と低かった。可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。また、学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォーメーションを行うことも、引き続きの検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。この件に関しても、今年度以上に具体的に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習に関しても具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	平田　健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	18

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅰ（医療機関実習）の事前事後指導の科目である。３年次の医療機関実習での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら医療機関実習に臨むことができている。実習終了後のグループワークの中でも、自信の実習中のことを振り返ることができており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになっている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	３年次の精神保健福祉援助実習Ⅰに対しての、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉援助実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。従って、内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていたの項目は平均点が4.4、及び質問の受付答える機会の提供の項目については平均点4.4だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。　実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でてきていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。次年度も、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	平田　健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が14/15人おり、「資格取得に必要」が11/15人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた実習Ⅱ（地域実習）の事前事後指導の科目である。３年次の医療機関実習での学びを通して４年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら地域実習に臨むことができている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	４年次の実習Ⅱに向けた事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目について平均点4.0だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。　実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でてきていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。次回からも、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目ではないが、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、最終レポート、リアクションペーパー、途中の課題レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとても役に立ったや、幅広く地域での福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための専門科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.4と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォーメーションを行うことも、引き続きの検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。この件に関しても、今年度以上に具体的に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格の科目ではないが、その関連性が強く、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度に関しても、引き続き予習復習に関しても具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本　有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」58.1%、「資格に必要である」41.9%、「関心のある内容である」22.6%、「単位数を確保する」30.6%、「友人が履修している」6.5%であった。1年次科目であるため、まずは資格取得に勧められている科目として受講してみようかという学生が中心であると考えている。また、本科目は1年前期の心理学概論Ⅰに引き続き、学生が初めて心理学の基礎的理論や研究に触れる科目であることから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。 授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。 毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.4点であった。全体70名に対し、80点以上の理想的レベルの者は34名であったことから、およそ半数の者が理想的レベルの知識理解が進んだと考えられる。また、再試対象者は11.4%であったが、再試を受験した者は再度勉強をし直し、標準的レベルの者と同等の知識を獲得したことが確認された。 学生の自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.6点と高い。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験に必須の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学概論の学習は重要でかつ妥当であると考える。 学生アンケートに「心理学の基礎について知ることができ、さらに知識を深めたいと思いました」という意見があり、本科目の1年次開講の意義を反映している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ ｢授業の質の評価｣｢学習量の評価｣｢学修のための情報利用｣｢図書館，インターネット利用｣学生の意見など	授業はプリントを配布したが、「プリントで十分（学習した）」「プリントに詳しく書いてある」「プリントを使い復習した」「ラインをプリントに引いた」など、学習に有効活用されているようである。引き続き、テキストを補うべくプリントを用いて授業を行っていく。 学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が43名、うち6回行った者が2名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が50名、うち6回行った者が2名だった。授業内容は新しい概念や言葉など知識獲得を目的とするものであったため、まずは授業内容を理解し獲得していくことに専念した学生が多かったと言える。 「授業の課題以外には、何をしていいかわからなかった」という感想の一方で「時間がなかった」「授業をしっかりと聞いた」「授業の予習・復習」を主に行ったと述べている者が多く、まずは授業内容を自分のものとして吸収することを念頭に学習をしていることが伺える。 毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、学生が自主的に予習・復習に取り組んでいたことが伺え、また、その結果は試験に反映されたと考えられる。 「もっと詳しく知りたいものを調べた」という学生がいたが、今後このような姿勢の学生が増えていくことが期待される。 試験前には、個別に質問や確認に来るようにと促していたが、成績の振るわない学生のなかには、学習内容における疑問や自らの学習上の課題を解決できていない学生が含まれているようであったことから、そのような学生に対し、積極的な学びを引き続き促していく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、今後そのような学生に対しても十分な学びを促していきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	谷川　弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	ソーシャルスキルトレーニングと家族療法という2つのテーマについて，理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。テーマ毎のプロシージャーは次の通りとし，間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。 導入（教員による解説）⇒　ロールプレイ・グループワーク　⇒　理論学習（発表と討論）　⇒　まとめ 本年度は，SSTの応用について，災害時のストレスマネジメントを取り上げて検討する機会を設けた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	認定心理士コースではない福祉心理養護教諭コースの学生と子ども家庭福祉コースの学生の履修も増えてきた。それゆえ「関心のある内容である」という受講動機が41%と多くを占めた。 成績評価はつぎの通りであった。・全体の平均：82.0点（昨年度78.5点）　・ソーシャルスキルトレーニングの得点割合：.82　・家族療法の得点割合：.86　・最終レポートの得点割合：.75 学生の授業評価を昨年度と比較した結果は下記の通りであった。　・全体：自分なりの目標を達成：3.3→３．７（学科平均3.7）　・DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.6→３．９（同4.0）　・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.7→３．８（同3.7）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.8→３．８（同3.8）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.5→３．９（同3.7）　・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲をもつ：3.5→３．９（同3.8）　・DP-5-1,5-2：自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける：3.4→３．９（同3.7）　・DP-5-1,5-2：コミュニケーション力や表現力を高めることができた：3.8→４．０（同4.0） 全般にみて改善傾向がみられ，目標は概ね達成したと評価した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	問題ない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	履修した学生達のペースを見ながら進め方を調整していった。本年度，災害時のストレスマネジメント教育については時宜を得ており，参加度が高いことが示された。今後も，これらの形を維持していきたい。 なお，授業の質の評価において「説明は理解しやすい」３．６（学科3.9），「質問を受け付け，答える機会」３．６（同3.9）と低くなっていた。演習でありながらこのような結果であったのは，課題を提示し，それらの実行を観察したあとのフィードバックの量的な課題として受けとめたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「履修者の状況が変わりつつあることを意識して，従来の方法に拘泥しない」という昨年度の総括に沿って，展開することができた。今後も，やり取りを増やしていくことが求められる。グループワークにおけるフィードバックの力量を高めていきたい。 テキストの必要性についてはさらに検討を進めたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本　有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	×	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」12.5 ％、「資格に必要である」62.5%、「関心のある内容である」25.0%、「単位数を確保する」25.0%、「ＧＰＡをあげる」12.5%、であった。認定心理士資格取得希望者が多く受講している。それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講している科目と考えられる。 本科目は、高齢者領域の臨床心理学、心理アセスメントと心理療法を取り上げており、3年後期は社会福祉士の実習期間が入ることを念頭に、心理アセスメントの理解を十分に深めた上で、心理療法について取り扱うよう計画している。受講学生のなかには、高齢者領域に実習にいく学生もおり、体験を交えて知識や技術を獲得できるよう学生の意見を多く取り入れた演習となるよう心掛けている。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.5点であった。概ね80点以上の理想的レベルに到達している。 学生の自己評価においても「自分なりの目標を達成した」の平均点は3.8点と最も高く、次いで「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均点も3.6点で比較的高い。その他の到達度平均点は3.5点であり、学生も目標を達成したと感じていると考えられる。 ただし、全体として「まあそうだと思う」を選択した学生が多く、「わりに」「かなり」と感じることが出来なかったことから、技能表現の達成状況を「やや達成された」とした。演習は技能表現を高める場として最適であることから、より技術向上を実感できる授業展開を工夫する必要がある。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、高齢者領域の臨床心理学の心理アセスメントおよび心理療法を体験的に学ぶことのできる内容である。したがって、基礎的な心理学、発達心理学の知識を修得した上で、それを実践にどう結び付けていくかを考えていく段階での学習が有効である。よって、３年次の開講は適切であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業はまず対象者理解を促し、心理アセスメント・心理療法についての解説を行った後、学生同士のロール・プレイを行った。 学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が３名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が２名だった。また、授業以外の学習に取り組んだという学生は１名であった。また、授業の質の評価にて、「提出物等の評価基準が明らかであった」に少しそうでないと思う者が２名、「学習の範囲や課題は明らかであった」に少しそうでないと思う者が２名いた。 以上より、毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、もう３年生であり、もっと学生が自主的に発展的な学習に取り組んでいくよう、促す必要があったのではないかと考える。また、自主的な学びを期待している部分と、これだけは学んで欲しいと目的にしている部分をもっと学生に積極的に提示していく必要があると考えられる。 また、ウォームアップが十分になされ、もっと対象者や臨床現場についてのイメージアップがなされていれば、演習体験から獲得される知識や技術、それらを獲得した実感を学生が持つことができたのではないかと考えられる。 今後は、自主的な学習及び対象者理解を促す工夫を行っていく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今後はさらに自ら進んで学ぶ姿勢の学生が増え、学生が学びの成果を実感することができるよう、指導の枠組みを明確にし対応していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井　未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本学科が養成する資格を取得する上で、胎児期～児童期までの発達過程について心理学的観点から理解することは極めて重要であると位置づけているが、資格取得のための必修科目に指定されていないため、受講者数が1/3程度にとどまっているところが気になった。内容的には理論的要素の強い学問領域ではあるが、自らの発達を振り返ることができるためイメージしやすいところがあったと考えられる。またできる限り、具体的な事例などを紹介することでイメージの共有を図った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は76.4(±8.5)であり、最終的に単位を取得できなかった者(放棄した者を除く)は1名であった。学生による到達度評価が3.4と高めであり、知識の確認・修正・獲得の領域も3.7と高かった。学習量は低いものの授業の内容の理解は十分であったと評価できる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目の内容は福祉の専門職(特に児童・障害児・教職・保育)にとって必須の知識と考えられるが、選択科目として位置づけられておりCAP制の問題もあるため、受講者数が少ない点が気になるところである。これについては、カリキュラム改定時に検討の余地があると考えられる。こうした点を踏まえると学科のCPとは合致していると考えられる。学生の受講動機としては「必修科目である(実際は異なるが)」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」がそれぞれ7.1%、25.0%、39.3%が多くを占めており、この点からは内容的妥当性があるものと考える。一方DPは標準的水準以上の達成をしていると評価しているものの、学生の学習量は十分とは言えず、授業の内容以上に知識を増やそうという意欲のある学生が少なかったのが残念な点である。人間の発達の複雑さ、面白さに触れ、自発的で発展的な学習を促すよう、参考文献などを適宜紹介していきたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.0-3.7と比較的評価が高かったと理解している。学生からの質問については感想に記載されているものもある。以前の授業では感想に書かれた質問に文書で応じたこともあったが、回答だけで4，5ページに至り先に進めないこと、学生自身が自己学習する機会が減ってしまうことが懸念されたため、2016年度より第1回目の授業の中で、「分からないことがあれば、一度は自分でレジュメや教科書、その他の関連図書を読んで解決する努力をしてほしい。その上で分からないことがあれば、直接質問に来るように。」と伝えることとした。また参考になる関連図書についても提示した。予習・復習の仕方については、一人ひとり理解度や学習方法が異なるため、各自に必要な程度・方法で行ってほしい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生自身の到達度評価及び成績も概ね高い値を示していると考えられるため、本科目においての授業構成・展開でさほど問題はないと思われる。課題としては、学生が自発的・発展的に学習するように、レジュメに提示されている参考文献を読むなどの注意喚起を行っていく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	谷川　弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達臨床心理学	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	心理学概論Ⅰ，心理学概論Ⅱ，発達心理学Ⅰ，発達心理学Ⅱ，福祉臨床心理学Ⅰ，福祉臨床心理学Ⅱの学修を踏まえて，福祉学科で必要と思われる臨床発達心理学の応用理論について学習を深める科目である。 学生の授業評価によると昨年度，受講動機の1番は「関心のある内容である」50.0%であったが，本年度は「必修科目」66.7%，「資格取得に必要」55.6%，「関心のある内容である」11%となり，まったく異なる準備性であった。これは子ども家庭福祉コースの学生のほとんどが受講したためであり，学習準備性は低くはないと思われた。 なお，あらかじめ小テスト，レポートの予定を示し，計画的な参加ができるようにしている。昨年度，課題とした，成人や老人，保健医療分野への内容のシフトを実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	履修者は18名（昨年度35）採点対象者も同数であった。 レディネスの調査では，心理学概論Ⅰは100%，心理学概論Ⅱと福祉臨床心理学Ⅰは94%が履修しており，発達心理学Ⅰ，発達心理学Ⅱの履修者は少なかった。また，現場に出て行く経験をもつものは少なかった。以上から，発達心理学については入り口のみの学習であり，臨床心理学は基礎を押さえていると考えられた。 成績の平均は72%であり全員が一度で合格した。　学生の自己評価を昨年度と比較するとつぎの通りであった。 ・全体：自分なりの目標を達成：3.2→３．６（学科平均3.5）　・DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.5→３．８（同3.8）　・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.3→３．６（同3.6）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.4→３．７（同3.6）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.3→３．７（同3.6）　・DP3-1:：自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲をもつ：3.5→３．８（同3.6） 全般に改善傾向であった。 以上の結果から到達目標は「概ね達成」と評価した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	問題ない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年度実施した「質問・感想・意見」の記入については実施できなかったが，できるかぎり授業その物の中で双方向のやり取りを行うように工夫した。学生の授業評価で学科平均よりも.3高いものとして「自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会がつくられていた」３．８（学科平均3.3）「質問を受け付け，それに答える機会が与えられていた」３．８（同3.5）にも，これらの工夫の結果が反映していたと推察される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉フィールドでの実践的な課題を増やしていくこと，学習準備性を確認すること，双方向のやりとりを重視することについて，継続していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本　有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	74

2. 観点･DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	×	〇	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学生の受講動機は、「必修科目である」56.7%、「資格取得に必要である」47.7%、「単位数を確保する」30.8%に比して「関心のある内容である」6.2%であったことから、知識獲得に加え、意欲と関心を高めるという目的が必要であったことが伺える。本科目は、1年後期開講科目であり、初めて臨床心理学に触れる科目であることから、その基礎理論を具体的に分かりやすく伝えること、テキストの内容に加え、適宜参考資料をプリントし添付することで、学生のこの分野への知識理解の深まりと意欲関心の高まりを促している。 授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.9点であった。全体72名に対し、80点以上の理想的レベルの者は35名であったことから、およそ半数の者が理想的レベルの知識理解と関心意欲を獲得したと考えられる。また、再試対象者は全体の13.9%であったが、再試受験者中66.6%の者については、再度勉強をし直し標準レベルの知識を獲得したことを確認することができた。学生の自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.6点と高い。 ただし、90点以上の者が16名（うち、100点4名）いた一方で、再試対象者も居り、特に知識理解に関しては「達成された」に一歩及ばなかった。 意欲関心については、殆どの学生が小レポート30点配点中8割を超えており、最も低い学生でも6割であったため、概ね達成されたと言える。 学生の自己評価においては、「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は平均点は3.5点とやや低いが、それは福祉臨床心理学における実践の基礎となる古典的理論が、「自分の学ぼうとしている専門分野」とどう結びついていくのかがまだ明確になっていないことによると考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を獲得する上で、臨床の心理を学ぶことは基礎である。したがって、1年次の福祉臨床心理学Ⅰの学習は重要でかつ妥当であると考える。 福祉臨床心理学Ⅰにおける臨床心理学の基礎理論は、福祉臨床心理学Ⅱ、発達臨床心理学における応用的知識へつながる重要な導入科目として位置づけられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業は、スライドを用いてテキストのキーワードや概念を分かりやすく伝えるように工夫した。また、テキストの内容に加え、適宜参考資料をプリントし添付することで、学生のこの分野への知識理解の深まりと意欲関心の高まりを促した。学生のアンケートからは「資料をもらったので読んだ」との意見が出された。 学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が35名、うち6回行った者が3名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が42名、うち6回行った者が3名だった。授業内容は新しい概念や言葉など知識獲得を目的とするものであったため、まずは授業内容を理解し獲得していくことに専念した学生が多かったと言える。 自由記述欄にも、「授業の課題以外には、何をしていいかわからなかった」という感想の一方で、「テストのためのノート作成」「試験勉強」「復習」を主に行ったと述べている者が多く、まずは授業内容を自分のものとして吸収することを念頭に学習をしていることが伺える。 毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、学生が自主的に予習・復習に取り組んでいたことが伺え、また、その結果は試験に反映されたと考えられる。 試験前には、個別に質問や確認に来るようにと促していたが、成績の振るわない学生のなかには、授業内容についての疑問や自分自身の学習課題を解決できていない学生が含まれているようであったことから、今後そのような学生に対し、積極的な学びを引き続き促していく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成、意欲関心の向上について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、そのような学生に対しても十分な学びを促していきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本　有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会心理学	3	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」14.３ ％、「資格に必要である」21.４%、「関心のある内容である」35.７%、「単位数を確保する」53.６%、「ＧＰＡをあげる」7.１%、「友人が履修している」3.６%であった。選択科目であり、認定心理士資格取得希望者には必要な科目であるが、それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。 本科目は、個人と環境との関係を重視する心理学の領域を取り上げており、身近な現象を研究により理論としたものが多い。講義のなかでも身近な例を取り上げて、研究方法やその理論について解説を行うが、学生が日常生活や今後の専門性を生かした働き方と重ねて学ぶことができるよう、小レポートにて学生から具体的な例を提案させることにより、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.３点であった。全体29名に対し、80点以上の理想的レベルの者は23名であったことから、およそ8割の者が理想的レベルの知識理解が進んだと考えられる。また、再試対象者は3.３%であったが、再試を受験した者は再度勉強をし直し、標準的レベルの者と同等の知識を獲得したことが確認された。 学生の自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.５点と比較的高い。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験に頻出の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職として個人と環境との問題を検討するためには基礎となる学問である。心理学概論、発達心理学、臨床心理学等の心理学の各領域の知識を獲得し、さらに専門性を高めようとする３年の時期に学ぶことは、適切であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業はレジュメを配布したが、「レジュメが分かりにくかった」との指摘があった。また、「レジュメを穴埋めにしてほしい」という意見は、学習に有効活用したいが、うまく活用できないという指摘だと考えられる。テキストの内容を基本に授業を進めたため、レジュメは補助教材という扱いであったが、学生にその意図が十分に伝わっていなかった可能性がある。教員の決めた枠にとらわれず、テキストの読み方、ノートの取り方、メモの仕方などの自らの学ぶスタイルを確立するよう促しを行っていく必要がある。 学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が４名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が６名だった。また、授業以外の学習に取り組んだという学生は0名であり、その理由として「忙しかったため」と述べる学生が数名いた。授業は、社会心理学の基本的な内容であったため、成績を鑑みると、授業を受けていれば十分にその知識を獲得することができたのだと考えられる。毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、もう３年生であり、もっと学生が自主的に発展的な学習に取り組んでいくよう、促す必要があったのではないかと考える。 「もっと詳しく知りたいものを調べた」という姿勢の学生が増えていくよう授業内でより一層参考図書等の案内を行っていく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今後はさらに授業内での学び方および課題外での学習において、自ら進んで学ぶ姿勢の学生が増えていくよう、より積極的な指導を行っていく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本　有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニティ心理学	4	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」9.1%、「資格に必要である」45.5%、「関心のある内容である」36.4%、「単位数を確保する」36.4%、「友人が履修している」18.2%であった。選択科目であり、認定心理士資格取得希望者には必要な科目であるが、それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。 本科目は、臨床心理学の実践から生まれた応用領域の学問を学ぶものである。このコミュニティ心理学の基本概念や実践報告には、臨床心理学や社会福祉学と重なる点や異なる点が数多くみられる。そこでこれまで福祉学科で培った各学問との関係、各対人援助領域での応用のあり方について、文献を読み解きながら、受講者全員による質疑、議論を重ねることで、本科目の知識を吸収していくことを促した。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88点であった。ほぼ全ての受講者が理想的レベルの知識理解が進んだと考えられる。 学生の自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.7点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均点は3.7点と高く、次いで「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均点が3.6点であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、臨床心理学の応用領域ということから考えると、これまで３年半の間に獲得した心理学と社会福祉学の各領域の知識を生かし、さらに専門性を高め、実践に結び付けることを志向し議論することは、４年後期の時期に適切であると考えられる。 学習の質評価は、平均点3.5～3.9点と概ね高く、学生の力に合った授業内容であり、授業展開ができたと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業外での学習については、学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が6名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が6名だった。また、授業以外の学習に取り組んだという学生は2名であった。これは、当初の受講動機の比率と近く、元々動機の高い者と低い者により学習に対する自主性に差があったのではないかと考えられる。 授業内での学習については、学習の質評価は平均点3.5～3.9点と概ね高く、学生の力に合った授業内容であり、授業展開ができたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今後も、受講者全員による質疑、議論を重ねることで、知識の吸収を促していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野　郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	45

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①学生の75.6%が、受講動機を資格取得のためとしている。受講生の多くが養護教諭を目指していることから教職採用試験および学校現場に必要な内容を意識した内容とした。特に最近めまぐるしく変わる法律改正などは、最新の情報を提供した。 ②福祉学科1年生にとり、かなりハードルが高い科目である。今年は、理解度を上げるため講義の進め方を学生に選択させるなど工夫した。例えば、教科書とパワーポイントどちらを優先し説明する方がより講義内容を理解しやすいかなど。 ③理解度の把握を行うために講義中に質問をし、個人・全員の反応を見た。学生の理解度が良くない講義内容は繰り返し説明するようにした。 ④今年度は、レポート作成に1冊ではなく複数の図書を使用するようレポート評価基準にあげた。そして、図書・文献検索を積極的にするよう促した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は71点であり、再試対象は4名であった。91%の学生が標準的レベルに達しており、理想レベルと思われる80点以上の学生は27.3%であった。　また、レポート課題の平均得点は8/10点であった。 ②自由意見より、知識の整理を教科書に記録し振り返る、あるいはノートにまとめるなど、学生は自分にあった学習方法を見つけ復習を行なっていた。学生の知識理解の自己到達度は100%で、自己点検評価平均値は4.1であった。1回に30分以上の時間を2～6回かけて予習した学生は50%、復習した学生は55%であった。一方、29%の学生が予習に、21%の学生が復習に1回30分以上の時間をかけてなかった。 ③課題レポートの評価基準は明確に示すよう心がけ、レポート提出期間も考慮するなど充分な学習時間を確保したが、授業の質評価平均値はともに3.9であった。また、レポート評価基準に図書館の活用をあげたが、図書・雑誌を利用した学生は57%、学術データベースを利用した学生は50%にとどまり昨年より図書館利用率は低値だった。 ③課題レポートの評価基準は、明確に示し詳細に説明したつもりであるが平均値は3.9で、1名の学生は評価基準の理解が充分できていなかった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 　この科目は専門教育科目で養護教諭取得免許取得に必要な必須科目である。そのため福祉・医療・学校現場で必要な感染症の基礎知識を身につけるうえで、　　科目の内容は妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 　養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の習得を目指しており、学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 　上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①総合評価では91%の学生が標準レベルに達しているが、上記に記載したように学習時間の確保が充分でない学生がいる。学習時間を確保するために、レポート課題とは別に、講義前後でミニ課題を出すなど学生に調べ学習を促すよう方策をとる。 ②学生の参考図書・学術雑誌、学術データーベースの利用率は57%、50%と予想以上に低率であった。上記の改善策が学生に充分に伝わらなかった可能性がある。次年度は図書館活用に向けたレポート課題の評価基準自体を学生が理解できているかどうか確認しつつ説明を行う。そして、この改善策を継続して行うことで積極的な学習姿勢を養う。 ③今年度は講義中に学生の理解度を把握するため、教員から学生に質問をする方策をとったが、次年度は学生から教員に積極的に質問をするよう働きかける。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ基礎知識の修得を目指すという目標は、学生の知識到達度から達成できたと思われる。しかし、学習姿勢が身についてないと思われる学生が例年以上に多く課題が残った。講義を通し具体的に学習課題を提示するなどの授業工夫が必要である。また、学生の学習に対するモチベーションをあげていくためにも学生から質問が積極的に出るような教育環境・雰囲気を作るよう心がける。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	坂巻　路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、食物に含まれる栄養素の役割やその人体での機能について解説し福祉に従事する立場から健康・栄養の大切さへの理解を深めることを目的としている。選択科目であるが、養教一種免許状の資格取得の必修科目である。本年度の受講動機では、「資格取得に必要である」93.1%であった。授業の準備性について、1～3回の予習・復習を行った学生は、何れも40%台であった。半数以上の学生について、授業の準備性が不十分であった。昨年度も授業の準備性は、改善が必要であると感じたが、次年度以降も継続し、講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	総合的な成績の平均値は80.9（±7.9）点であった。再試対象者は、いなかった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは半数以上であった。学生による授業評価においては、回答者全員が新たな知識を得ることができており、また自分なりの目標を達成できたと回答している。また、学びを深めたい者(90.0%)、様々な課題を検討する力を得た者は(86.7%)で、教育目標は概ね達成できたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、選択科目（養護教諭一種免許状の必修科目）であり、福祉分野における栄養学の基礎的な知識の修得を目指している。学生による授業評価においては，ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身に着けることができたと評価している。成績評価においても、一定の成績を修めるていることから，内容的には妥当であると考える。 ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識、思考判断、態度等に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。 まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価においては、回答者全員が自分なりの目標を達成し(平均3.4)、新たな知識を得ることができた（平均3.6)、と回答している。学生からの意見として、「新鮮でおもしろかった」、提出物に記載されていた「質問に対し、回答があった」等、ポジティブな意見も見られた。学習量の評価において、予復習の取り組みをしたものの割合が増加できるよう、次年度に向け授業の進め方及びレジュメの内容等を検討する。併せて、自発的学習の動機づけとして、図書館の利用を積極的に勧めたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習到達度の自己評価から、多くの学生が目標を達成し、栄養学分野において新たな知識を得て、的確に判断する力を得ることができたと考える。次年度に向けこれらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、学習の準備性への取り組み状況が改善できるよう、授業内容の改善を図ると共に、情報収集の場でもある図書館やインターネットの積極的な活用を促したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	清末　達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	はい	32

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	この科目は、細胞の機能から始まって、生命体維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問であるが、福祉学科の専門分野と関連が深い、神経系の働きについて理解することに重点をおいた。高等学校で学んだ、生物基礎の知識を基に、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、神経系に関する基本的な事柄が理解できるように努めた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに対して、全員が「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答を行っている。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができたか」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対しても肯定的回答がほぼ全員から得られており、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。 期末にテストによる成績評価を行ったが、全員が合格点を超えていた。期末試験問題として、過去の国家試験に出題された項目をなるべく網羅するように心掛けたが、この結果から、多くの学生がこの科目に積極的に関わったものと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	この科目は、社会福祉士国家試験の中の、「体の構造と機能及び疾病」において重要な生理学分野の科目である。受講生の8割近くが、資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」や「微生物学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病のなりたちについての正しい知識を身に着けるための科目である。 ここ数年の「体の構造と機能及び疾病」の分野の国家試験問題は、きわめて難易度の高い設問も含まれており、この科目の授業内容では不十分な点もあるかと思われる。授業時間が限られる中で、難しい課題ではあるが、国家試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、さらに創意工夫する必要があると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	講義のほかに、ビデオ教材を用いたり、スパイロメーターのデモを行うなど、「生きた生理学」を体験してもらうことも、この授業で目指したものであった。 「驚異の小宇宙　人体Ⅱ」のビデオ教材は、記憶や感情、視覚などに関する生々しい現場の情報を得ることに触れる機会を提供するものであったが、ビデオ教材についての感想文からは、多くの受講生が真摯にこの課題に取り組んだことが伺われた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	限られた授業時間内に、人体のすべての臓器についての基本的事項を講義することは不可能である。生理学に関する過去の国家試験問題はなるべく授業で取り上げるように努めたが、必ずしも受講生にとって直ちに理解できる内容ではなかったかも知れない。「内容がむずかしかった」という受講生の意見もそのことを反映しているように思える。 今後の課題としては、2年前期に開講されている「解剖学」との連携を、もっと強めるような工夫が必要であると考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木　光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動処方論	3	後期	選択	いいえ	19

2. 観点･DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「関心のある内容である」と答えた学生は77%、「単位を確保する」が62%であった。 授業においては、1年次の「健康科学」の内容を振り返ることで、健康に関する正しい理解を促すと同時に、高齢者、妊婦、および子どもに適した運動（遊び）のプログラムの作成方法について具体的に説明を行った。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.8（±11.5）点であり、再試対象者は1名であった。成績分布別にみると、90点以上が5%、89～80点が47%、79～70点が16%、69～60点が32%であった。全員が標準的レベルに達しており、そのうち52%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が5%、「わりにそうだ思う」が53%、「まあまあそう思う」が42%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が16～21%、「わりにそうだ思う」が32～42%、「まあまあそうだと思う」が37～53%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6～3.8）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が16～21%、「わりにそうだ思う」が26～32%、「まあまあそうだと思う」が47～58%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6～3.7）。 その他「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.8、3.5～3.7、3.4であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	専門教育科目の「保健・医療関係科目」に含まれる科目である。授業では高齢者、妊婦、子どもそれぞれの特徴を理解させた上で、それぞれに適した運動（遊び）プログラムの作成方法について具体的に解説を行った。「知識・理解（DP1）」、「思考・判断（DP2）」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.6～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、6回が5%、4,5回が5%、2,3回が11%、1回が26%、0回が53%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が0%、4,5回が15%、2,3回が21%、1回が32%、0回が32%であった。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は58%であったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では専門科目の必修であり、養護教諭コース選抜直後であるため、授業への取り組み、学習の準備　に個人差がみられた。これはある程度予想されたことであるので、その点を考慮して授業を工夫した。受講動機をみると「必修科目である」29.0%、「資格取得に必要である」90.3%、「関心のある内容である」3.2%であった。 ②専門科目の履修がまだ少ない2年生なので、ノートの作成、レポートの書き方、課題の調べ方なども指導を行い、また予習復習ができるように課題をこまめに提示し、学習意欲が高まるように努めた。 ③昨年度までと同様、授業の終わりに学生自身が記入する「学びと学習状況」カードを取り入れるなどして授業の工夫を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.19（±8.23）点であり、成績の分布は、A 6.3%　B 43.8%　C 34.4 %　D 15.6 %で再試対象者は０名であった。標準的レベルまで達成した履修者は50.13%であり、履修者全員が単位取得できた。①到達度自己評価では、10項目の各平均値が3.8～4.0であり、「専門分野における学びを深めたい」4.0であった。②授業の質評価では、「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめ、話し合う、発表する、など学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書などで学生の質問などを受け付け答える機会が設けられていた」などの観点では平均がが 3.6～3.9であった。 これらは、事例や課題を提示して能動的に学習できるように授業を工夫したことによると考える。ただし、履修者の学習量については、ほとんど予習（４名）・復習（３名）をしなかったとの結果も忘れてはならないが、おおむね到達できたと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、養護教諭コースの専門必修科目であり、養護実習につなげる科目であり、学校現場の実状を提示することで，能動的授業参加ができたと考える。履修者の学習到達度自己評価では、目標別にみると知識理解、思考判断、意欲関心、技能表現について、84%～94 %の履修者が到達できたと回答しており、到達度平均値では3.8～4.0 ）。能動的な学習・授業展開などに対して、学生も一定の成績を修めていることから，内容的には妥当であったと思われる。履修者の多くが意欲的に取り組み、行動目標の達成及び成績評価から見ても達成できており、妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 養護教諭一種免許取得では必修科目であり、養護教諭コース選抜後の２年後期の開講であることから、学校保健の基礎理論から実践力を養えるような目標と内容に絞って授業を展開した。また、履修者の多くが意欲的に取り組み、行動目標の達成及び成績評価から見ても達成できており、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	専門科目の履修がまだ少ない2年生なので、ノートの作成、レポートの書き方、課題の調べ方なども指導を行い、また予習復習ができるように課題をこまめに提示し、学習意欲が高まるように努めた。しかし、学習量の評価では予習復習を積極的に行うように努力する学生のレベルは高いが、とそうでない学生も見受けられ指導に苦慮した。 養護実習につなげる科目であり、学校現場の実状を提示することで，能動的授業参加ができるように工夫を行った。図書館利用やイナターネットの利用を奨励するよように課題を課した。プロジェクター等機材等の準備を手早く行うように努力した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭コースの専門必修科目であり、養護実習につなげる科目であり、学校現場の実状を提示することで，能動的授業参加ができたと考える。また、授業目標、内容は概ね達成できた。初めの頃学習意欲が低い履修者が見受けられ、指導に苦慮したが、指導効果があった。今後も授業を担当することがあれば、これについては様々な要因が考えられるので、しっかり分析して、その指導方法を研究し、授業の質を高めていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	樋口　善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業の実施にあたっては，本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから，地域保健の仕組みや実践活動の具体例など，養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。また，授業の準備性を高めるため，適宜，学校保健との関連性について説明を加えた。学修準備性については，おおむね良好であった．その理由として，養護教諭のライセンス取得に関連する科目であり，受講動機が高かったことが挙げられる。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目は，養護教諭の実践力の育成に関連する科目であり，知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として，「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」の平均値は4.2であり，知識理解は達成できたと考える。また，思考判断・意欲関心についても「自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」が4.3点，「自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力を得ることができた」が4.0点であった。 一方，技能表現については，講義形式で座学が中心であったことから，完全に達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.6点，「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が3.7点と他の項目に比べて低くなっていた。次年度以降の課題として検討したい。 全体を通して，最終的な成績の平均点は86点，再試験対象者が0名であった。到達度としては概ね良好であったと考える。授業の予習復習や課題への課題については取り組む姿勢が見られたが，指示された課題以外の学習に取り組むものの割合が，27名中3名と少なかった。参考図書などを紹介して，自主的な学びを促していきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	カリキュラムとして，本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり，専門教育科目として位置づけられている。学校保健の実践者になる上で必要な関連知識を学ぶ位置づけであることから，講義の内容としては，基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き，成績評価としても記述式の期末試験を課し，地域保健に関する基礎的知識と共に，自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については，より学校保健との関連性についての説明を適宜加えていくことが学修意欲を高めることにつながると考える。公衆衛生学的な地域保健に関する高度な内容の解説よりも，学校保健との関連性から地域保健事業の背景や課題などをみることによって，知識だけでなかく，積極的な主体的学びにつながると考える。また，講義の中で専門用語や組織などは名称や詳細などは，インターネットなどを活用して自主的に調べることを促すことも検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的評価として，おおむね良好であったと思われる．本講義を担当して3年目となるが，基礎的な理解に重点をおいて行っている。授業の進め方については肯定的な評価（説明は理解しやすいものであった・・・4.0点，授業中に，自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が作られていた・・・4.2点）もあったころから次年度も継続して授業改善を進めていきたい。特に，基礎的な知識の修得に加え，授業スタイルとして，発言の機会を増やしたり，ブレインストーミングを取り入れたりするなど，双方向的な授業になるよう心がけ，より主体的な学びにつなげていく授業改善は継続していきたいと考える．前段でも触れたが，「地域保健をなぜ養護教諭が知っておくべきなのか」という点について受講生が主体的に考えるようにしていくことが本科目の課題であると考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では必修であるが、進路を確定していない学生の受講もあり、授業への取り組み、学習の準備に個人差がみられた。受講動機をみると「必修科目である」23.3%、「資格取得に必要である」90.0%、「関心のある内容である」13.3%の結果であった。 ②昨年度と同様に、総論では三つの大きなテーマを最初に提示し、講義内容の概要及び要点を説明するようにした。その後学びを深めるために、ペアをつくり知識を共有させて、次に４～５名のグループに分けて課題学習を探求するようにした。更にグループでのカンファレンスを行った後にグループ発表ができるように指導を行い、履修者全員が学習意欲が高まると同時に達成感を味わうことができるように努めた。 ④自己学習が出来るように学習方法を丁寧に説明を行った。履修者の興味関心のあるテーマを選択してもらい、図書館やインターネット等を活用した資料の収集方法やレポートの作成方法などを指導することで、履修者の知識理解、学習意欲が高まるように努めた。理解度の低い履修者には、配慮して指導を行った。 ⑤また、昨年度までと同様授業の終わりに学生自身が記入する「学びと学習状況」カードを取り入れるなどして授業の工夫を行った。全員プレゼンテーションを行うことができ学びあう充実感を体験できたようであった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.94（±8.28）点であり、再試対象者は０名であった。標準的レベルまで達成した履修者は81.3%（理想的レベル21.9%、標準的レベル59.4%）であった。履修者全員が単位取得できた。到達度自己評価では、各観点別の到達自己評価では、平均値で理解・思考、判断、意欲、コミュニケーション力表現力については平均り3.5～3.9で大きな差は見られず、おおむね達成されたと考える。看護の態度、技能表現についてはは3.6であたが、本科目の各論で基礎的レベルの修得を行うようにしたことで、達成できたと考える。 学生による自己評価においては，「自分なりの目標達成がほぼできた学生は93.8%でポイントの平均値は3.6であり、少しそうでない学生が6.2%であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、養護教諭コースの専門科目であり、必修であり、看護臨床実習につなげる科目であり、看護学の理論をしっかり教授することで，養護教諭に必要な知識、資質と態度を培うものである。学生も一定の成績を修めるていることから，内容的には妥当であったと思われる。　②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性　成績評価から内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①自己学習の方法について、図書館やインターネット等を活用した調べ学習、レポートの作成方法や資料の収集方法などを丁寧に指導した。しかし、履修者の学習量評価ではほとんど復習をしなかった学生が見受けられた(1～3名)が、予習課題を遅れても提出があった（本人の自主的行動で）。その他の学生は復習の時間が十分でないと感じたので、中間で再度説明の時間を取り行った。その効果はあったと思われる。（授業後のカードに要望、感想が記入されていたので行った） ②本年度は昨年の反省を踏まえて、プロジェクターなどの設備が整備された教室を使用することができたことで、授業開始時間が比較的スムーズにいった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は福祉学科ではでは選択科目であるが、養護教諭一種免許取得では必修４単位である。そのため週２コマの連続講義は、学生も負担が大きかったと思われる。そんな状況で、授業目標、内容は概ね達成できたと考える。関連科目（看護臨床実習など）も考慮しながら、前年度の分析と反省を踏まえ授業の改善を行ってきたことが、初めの頃は比較的学習意欲が低いと思われる履修者もおられたが、徐々に学習意欲が高まり、最後は充実感や達成感を味わうことができたようだ（授業後カードに記入していることから、）、授業者としては常にわかりやすい説明に努め、２コマ続きの良さを生かす努力を行った結果、全員が単位取得と高いレベルでの履修者が多く出たことはうれしく思うと同時に、さらに努力が必要と考える。今後授業を担当するならば、さらに履修者の学習意欲、理解が高まるような効果的な授業を展開できるようにしていきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	平田　健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健学	3	後期	選択	はい	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①　受講生を見ると、受講同期としては資格取得に必要である73%、必須科目である45%、関心のある内容である11%、単位数を確保する6%、関心のある内容である２%と大多数の学生の受講動機はかなり高く、積極的に授業に臨んでいるものと考えて講義を進めた。その際、国家試験問題を参考にして最低限のレベルは維持することに努めた。また、意欲を高めるために、随時、過去の国家試験問題を提示した。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」として、毎回授業終了時に、「講義の感想、質問、意見など自由に書いてください」と記入した「自己学習記録」を受講者から提出してもらい、次回授業の冒頭で質問には出来るだけ答えたり、知識の足りないところを補ったり、修正したりした。このことは、知識を深め、授業への参加意欲をさらに高めることにつながったと考える。③代表的な精神疾患に関しては、講義の初めに模擬患者のイメージＶＴＲや、疾患を紹介する画像DVD等を５～10分間程度提示し、そのうえで講義を行うように努めた。④毎回の講義の最後には、「本日の講義の要点、キーワード」として４～５項目を板書し、学習の一助とした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①　成績をみると、平均点　77.1点であり、再試対象になりそうな学生にはレポートを課して知識理解を補ったことなどから、目的はほぼ達成されたと思われる。②上記の「自己学習記録」における学生の記載内容からも毎回の講義の理解度が大略確認された。③学生の「学習到達度の自己評価」肯定的回答が52、否定的回答は2であったことからも裏付けられた。④「学習準備性」は、予習に対しては否定的回答33に対して肯定的回答は21であった。⑤履修に際して、シラバスを活用し立案したかどうかとの問いでは、否定的回答36、肯定的回答18と67%が否定的であった。また、計画を立案してもシラバスに沿って受講計画を立てたものは５/18と28%に過ぎなかった。　⑥図書館の利用に関して、図書・雑誌の活用およびデータベースの活用のいずれも全員が否定的回答をした。わずかにホームページの検索では肯定的回答5、否定的回答48、となっており、大半の学生が極めて消極的姿勢であることが明らかになった。⑦これらの回答結果を検討した結果、今年度も単に学生の要求に応えて資料提供することは適度に抑えて、学生自身が積極的に理解を求めて努力するような方向での教育、すなわち課題を提示することが必要である（欠落している）ことが明らかとなった。この点は次年度以降の課題としたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門科目」であるが「専門基礎科目」と「専門応用科目」の両者にまたがる科目である。この役目を果たすべく講義では工夫をしたが、学生も一定の成績を収めているところから内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみた内容的妥当性 「受講動機」等を検討した結果、内容的にも妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①４．で触れたことであるが、かって、「学習のための情報利用」「図書館，インターネット利用」を自主課題としたことがあるが、ほとんどの学生は手つかずのままであった。今後は、必須課題として提示し確認するような作業が必要であると考える。 ②教科書は日本精神保健福祉士養成所協会の編集したものを使用しており、必要充分な情報が記載されている。講義は、まず、その日の対象テーマについてビデオ画像を提示したり、スライドと配布資料を用いて要点を説明したりした後に、教科書を用いて全般にわたって知識を再確認している。 従って、「教科書にせんを引くところはテストに関係ある所だけにしてほしい」との一学生の意見は取り上げるまでもない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①１年半後の国家試験の成績結果でも部分的には評価されるが、ほぼ達成されたと考える。 ②あらためて、課題としては、昨年と同様、以下の項目が挙げられる。ｉ）如何にすれば、学生たちがシラバスを読んで授業に臨み、授業に集中できるようになるか。有効な方法があれば実施してみたい。ⅱ）単に学生の要望に応えすぎるだけだと、かえって自助努力する気持ちを殺ぐことになりかねないことを危惧する。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷　修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	3	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	×	〇	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	子ども家庭福祉コースの学生の3年次という意味では、先に保育場面の学習基盤が形成されており、教育原理は必ずしもそれと整合的ではない。本授業では保育を学ぶ学生にとっての教育原理という観点から内容的整合性を保持できるように努めた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体平均は83.9で、昨年度より10ポイント近く上昇している。達成度としては十分満足できるものであった。 ただし、取り扱う領域によって意欲関心に大きな差が見られた。保育的場面に関しては理解や説明の枠組みが一定形成されているためか、反応がよかった。例年反応がよくない歴史や思想に関する学習も、世界史的な知識がある程度あったためか、興味を持って取り組めたようだ。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	子ども家庭福祉コースの学生の3年次という意味では、先に保育場面の学習基盤が形成されており、教育原理は必ずしもそれと整合的ではない。本授業では保育を学ぶ学生にとっての教育原理という観点から内容的整合性を保持できるように努めた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今回は教育の目的・方法・意味といった部分だけを抜き出して始めるのではなく、教育の歴史や教育改革の動向など一定の社会文化的文脈に位置づけて理解する方法を用いた。それによって社会における教育のダイナミックな姿をイメージできるよう工夫した。教育史や思想について、特に古代に関しては世界史の学習との関連を強調することで、ある程度の効果がみられた。ただ、近代以降になるとイメージしづらいようで、今年度も学習意欲が低下したように感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	どうしても総花的に全領域を紹介することになりがちな科目であるが、少しでも幼児教育の専門職としての意識と教育の本質にかかわる問いを結びつける機会となるような授業を目指したい。教材研究や授業の構造に関する準備はもちろんだが、授業における教師の問いかけとそれに対する学生の反応という基本に立ち返って、そのような授業を成立させるきっかけを探りたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中　沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された				やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については全員が達成できたと考えており、成績評価においても概ねそれを反映している結果であった。「図書館利用」からは、ごく一部の学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、「学習量の評価」からは、予習・復習をしたのは僅かである。毎授業ごとの小テストを行うことで、前回の授業の重点ポイントを整理したり、学生のこれまでの生活の経験から授業内容が理解しやすくなるように事例を用いての理論の解説を試みた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、ＤＰの知識理解、技能表現に合致するものであり、ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する確認テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、学習習慣が身についていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もあると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目において、概ね目標は達成できたと考える。一部学習意欲の低い学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	川原　富紀枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①“食”に興味、関心を持ち楽しむことができるように、グループワークや調理実習を入れているのだが、受講動機では「必須科目である」66.7%、「資格取得に必要である」47.6%と２つの数値に差があり、さらには「単位数を確保する」9.5%、その他選択された回答はなくこの授業に対する関心の薄さを感じた。しかし授業前に実施したアンケート調査では全員が資格取得に必要な必須科目であると答えており「保育の現場で使えること」「自分の体調管理」「親になるため」にもしっかりと学びたいといった記載もあった。通年なので間延びしないように変化を持たせた授業内容にしていくことを考えていきたい。 ②シラバスに学習の課題も予復習に関しても記載しているのだが、参考にしているのは17%と低い。声掛けをしたりもしたが進まず宿題（ミニレポート）の提出を促すことに切り替えてみたりもしたがなかなか難しい。 ③全体的な関心度を上げるような取り組 みと、学習準備状況のアンケートなど授業の最初だけでなく後半も学習状況確認をしていくことと予復習ができるような内容にしていきたいと思います。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	達成された				やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79点で再試験対象は0であった。全員が標準的レベルに達していた。理想的レベル（概ね80点）に達したものは15名で全体の54%と半数以上を占めたがばらつきの幅が大きく、それもまた問題であるという気がしている。目的別にみると、知識理解に関しては81%、技能表現が77%であった。対人援助に必要な基礎的知識を習得できたといえるが、専門的なスキルを、またコミュニケーションスキルが理想的レベルに達していなったといえる。さらに到達度自己評価を見ても「コミュニケーション力や表現力を高めることができたか」との問いに平均値3.6と中央値を0.4下回っている。また、一年間の授業の成績を見ても同じ結果がでていた。この点は次年度に向けて、授業の内容についても改善されなければならないと思う。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムにおける本科目の位置づけからみての内容妥協性 科目は「必須科目である」66.7%、「資格習得に必要である」47.6%といったことからも学生が必須科目であるとしている。また、保育士という資格取得のための必要性として学生も受講していることから、位置づけ、動機づけの一つとしている。こうした課題に応えるためにも受講内容を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的妥協性はあると思われる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥協性 成績評価について、知識を確認・修正、また事象（自然、人、社会、歴史）を理解する視点や考え方を得ることができ、的確に判断する力も得ることができたとする中で、中央値をわずかに下回った自分なりの目標達成度がある。できていないという結果に方法的妥協性の問題がある。しかし理想的レベルまではあと一歩といったところであることから内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから進め方などに課題は残しているが、内容的妥協性は問題ないものと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目で「説明は理解しやすかった」平均値3.6と中央値を上回り、その他の項目においては中央値より0.1低い結果であった。また、学習量の評価では予習0回は25%、復習0回42%、授業の課題以外の学習への取り組みなし75%、取り組んだのは25%（取り組んだの中に1名はレジュメの見直しとの自由記述があり）シラバスの活用24人中4人、授業計画の立案5人、また取り組まなかった理由「他の課題でいっぱいだった」1名。学習量の評価は福祉科の平均値と変わりはないが授業以外の学習の取り組みでは18.6%だったので少しは良かったのかと感じた。また、図書館等の利用については12%、学術データベースの検索8%、インターネットの検索42%。予復習や他の自発的学習まで進めていけるように、事前に課題を提示し検討を加えて授業に参加するように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	基礎的知識の形成は教科書で概ねできたとしても、標準的なレベルを脱しえず、理想的なレベルまでには達しえていない。まずは授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを実施し、前期には確認テストを行い学生への予復習への意識を高め学習状況を確認する。また、シラバスに沿ってテキストはテキストとして利用しながらも、各回のテーマと具体的な事例や情報についても表示し、図書館・ネット等の利用をその都度促していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	谷川　弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	具体的な事例を増やすよう努めたほか，下記の視点は変更をせずに進めて行った。 子ども家庭福祉コースであるが子どもとかかわる機会が少ないことが背景にあるため，スタート段階で，準備性を確認するレポートの作成を求め，それを出発点におく。子どもらしさの既成概念を壊すこと，子どもと関わるときの価値志向性の多様性などを理解し，自分の考え方を相対化することからはじめている。根拠をもって考えるという姿勢を大切にしたいため，維持していきたいところである。その上で，個の発達について，関わりの発達について，できるだけ具体例を通して解説している。また，授業中に問題を提示してのグループワークなど，アクティブラーニングの要素を導入している。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講動機として「必修科目である」86.7%，「資格取得に必要である」60.0%が多く，「関心のある内容である」は13.3%と少なかった。 最終成績の平均は81点であった。　評価対象別にみるとレポートA82%，レポートB88%，小テスト74%，期末テスト78%であった。 学生の授業評価の結果を昨年度と比較した結果，つぎの通りであった。 ・全体：自分なりの目標を達成：3.2→３．７（学科平均3.5）　・DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.8→３．９（同3.8）　・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.6→３．９（同3.6）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.7→３．８（同3.6）　・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.5→３．８（同3.6） 改善傾向もみられており，成績も加味してみた場合「概ね達成」と考えて良いと思われた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	問題なし。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	ワールドカフェを含むグループワークにより，多様な視点があることを学ぶようにしているが，議論は昨年以上に活発であった。 学生による授業の質評価は下記の通りであった。 「評価基準は明確であった」４．１（学科3.6） 「学習範囲，課題が明確であった」４．２（同3.6） 「説明は理解しやすい」３．３（同3.6） 「参加する機会があった」４．３（同3.3） 「質問を受け付け答える」４．０（同3.5） 以上のように，説明の難しさを除いて，活性化された授業ではあったと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今後も，各種のアクティブラーニングの要素の導入には積極的でありたい。説明の難しさに関しては，なんらかの形で，双方向のやりとりを増やす必要がある。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中　沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容　健康	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	×	×	〇	×	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、実践現場についても十分とは言えないがそれぞれ実習で学んだことをさらなる学びに繋げようという意思も感じられる。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された			やや達成された		やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については概ね達成できたいう回答であり、成績評価においてもそれを裏付ける結果であった。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目という性質を考えると、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、ＤＰの知識理解、技能表現に合致するものであり、ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する確認テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、学習習慣が身についていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もあると考えている。 ２科目続きで担当していることから、授業時間を若干超過した点については次年度は改善する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている科目として、総合的に目標は概ね達成できたと考える。授業内容や授業スケジュールなど、学生にとって見通しを持って学習ができるように情報の提示の仕方を工夫する必要がある。また、一部欠席回数や遅刻が多い学生の関心・意欲を高める指導については課題がある。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容　人間関係	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	×	〇	〇	×	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、9割以上の学生の動機がそれに該当する。また、開講時には資格取得を目指しており、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、保育士として必要な内容で授業を構成した上で、対象学生の興味・関心を考慮することに重点を置いている。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、成績評価においてもA評価50%、B評価21%、C評価29%と成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であった。ただし、学習に際して、シラバスの活用や図書館利用等は１～2割程度であり、多様なソースを活用した学びには及ばなかったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行う課題があることから、関連ＤＰについては妥当であると考える。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。また、授業評価アンケートから、復習時間を確保している学生も確認され、円滑に授業が進行したと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、検討が必要であると考えるが、受講人数が増えるほど直接的に学生に教授することが困難となるため、資料提示や学習ソースの紹介に工夫が必要であると考えられる。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容　表現	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全受講学生の動機がそれに該当する。また、保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 例年に比べ受講人数が少ないため、双方向的に授業展開をする時間が長く取れ、学生のこれまでの経験や学修状況についても適宜把握が可能であった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された			達成された		達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、成績評価においてもA評価が54%、B評価が46%と非常に高い水準であった。成績評価上も良好であり、学生の実感と近い結果であったが、学習に際して、図書館利用等は2～3割程度であり、多様なソースを活用した学びには及ばなかったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行う課題があることから、関連ＤＰについては妥当であると考える。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	例年に比べ受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。また、授業評価アンケートから、復習時間を確保している学生も半数以上確認され、円滑に授業が進行したと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、検討が必要であると考えるが、受講人数が増えるほど直接的に学生に教授することが困難となるため、資料提示や学習ソースの紹介に工夫が必要であると考えられる。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	小野　正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育	3	通年	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	×	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「必修科目である」72.0%，「資格取得に必要である」48.0%と２つの数値に差があること，「関心のある内容である」4%(1名）と保育士の資格取得のためには、選択必須ではあるが学生の受講動機はそれほど高くはないことを示唆するものであった。できるだけ学生が興味を持てるよう具体的な事例や視聴覚教材の活用をすることで，関心をもてるようにした。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行い、他の授業との重複を出来るだけ避け、授業や技術演習内容の確認をした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期・後期を通じた最終的な成績の平均値は７４．５点であり，追再試対象は１名（試験時間に遅刻）であり、追試は合格している。全員が標準的レベルに達したが，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは４名（１５％）であった。後期のみでは、平均値は７４．２点で80点以上は１９．２％であった。 　目標別に見ると，後期は、知識理解に関しては７２．３％，思考判断に関する問題は８２．８％であった。 　学生による授業評価においては，知識理解を得ることが出来，技術を身につけたとおおむね評価している。また、的確に判断する力や課題を検討する力が少し得られなかったとする学生もおり、もう少し子どもを理解する視点や考え方、状況判断の視点、方法を授業後の質問紙以外で具体的に小テスト等を行うことて゛確認しながら授業を進めていきたい。またグループワークの際に意識して社会の仕組み等をもう少し時間をかけて図表等を用いてわかりやすく解説していく必要がある。また、コミュニケーション力や表現力が高められないということに関しては、グループワークである程度意見交換をしながら進めることで高めることが出来ると考えていたが、個々のグループで多少進め方に差があるためと思われる。意識して声かけをしていきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 　本科目は「専門教育科目」の中の保育関係科目であり、保育士の資格取得のための必修科目である。授業準備の欄で指摘したように，受講動機が「必修科目である」72.0%，「資格取得に必要である」48.0%と２つの数値に差があること，「関心のある内容である」4.0%(1名）と動機付けに苦慮する面がある。保育士が対象とする子どもに関する知識・技術としては、乳児期に必要な知識・技術が含まれるこの科目は､内容的に妥当であると考える。周辺科目との関連を持たせながら学生が興味を示すような授業の工夫し，学生も一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 　成績評価からは一定の成績を収めていることからも、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 　以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今年度、北九州市より次世代育成事業の一環として実施することとなった「赤ちゃんふれあい授業」を急遽授業に取り入れることができた。保育士を目指す学生にとって，その母親と直接話す機会は少なく、またじっくりと子どもを観察し、触れあう機会もあまりないのではないかと考え企画したが、学生の反応はとてもよく好評であった。毎年約束された企画ではないので、また来年度も実施可能であれば続けていきたい。グループワークも発表の機会を増やし、社会に出てからの問題解決の方法を学ぶ機会となっていると考える。全員が図書館を使い、積極的に課題に取り組んでいた。ただ学生によっては、他の教科の課題も多いと言うことで、興味を持った内容でも自主的に深めていくところまではいかないこともあるようである。グループワークのフィードバックを細やかに実施することで、興味関心を深め自主的な学習に繋がるようにしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価は一定評価を得られているが、学生の自己評価ではまだ十分ではないことから，毎回のねらいを具体的に示すこと、課題を意識的に提示するようにすること、説明は具体的にわかりやすく資料等を活用していきたい。また、グループワークでの学びはある程度効果があったが、知識の習得という面では、自分以外のグループ発表の内容を含め全体をわかりやすく要約をして知識の確認・整理をすることをやっていきたい。また他の教科の課題も多い中、内容の整理を行うことで，授業中に課題を行う時間を引き続き確保するようにしたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	障害児との接点がない学生が多く、また集団場面や療育場面といったイメージが確立していない学生に、障害ついての理解を深め支援の方法を伝えることを重点とし、保育実習での臨床経験で確認することができるように授業を展開した。演習科目であるが講義と学生とのコミュニケーションが中心となった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生自身の評価も3.5程度であり、教員の評価も同様である。達成度は継続的なテキストのノート作成とレポートで確認した。学生間でバラツキがあり、十分に理解していると評価できる者もいる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	障害児施設実習の直前の履修科目であり妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	概して受講態度がやや受動的であり主体的な授業参加の方法を工夫する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は、施設実習やその報告からも確認できるが、十分に障害児保育が理解されているとは評価できない側面もある。また受講態度がやや受動的であるため、予習復習を含めて、次年度は学生の主体的学習に重点を置いて理解を促し、実習に繋げていけるように授業を展開したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋　典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	ピアノの演奏技術においては、幼少期から大学入学前までの経験によって大きく異なるものであるが、前期の『保育の表現技術Ⅰ』において、初心者であった学生もある程度は楽譜を読み取り、ピアノを演奏できるようになり、モティベーションは高まってきたことから、さらにそれを高め、到達目標をより高いところにおいて日々取り組むことができるよう、各自の適切な課題の設定に努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された					達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期より難度の高い曲に挑戦し、弾けるようになる学生が大部分であった。ピアノの演奏のみでなく、弾き歌いと言う難度の高い課題が加わっての後期試験となったが、一人ひとりが十分に準備をして実技試験に臨み、全員合格で平均点は91点であった。また、授業評価アンケートにおいて、学生が授業時間外にピアノの自主練習を行ったことが記述されており、学生が技術習得に向けて主体的に取り組んだことが示された。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考える。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行うことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP，行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	ピアノ奏法の評価基準については昨年度からの改善方策としてより具体的に示し、定期試験に向けての取り組みに生かせるように配慮したが、授業の性質上、「テスト、レポート、提出物などの評価基準」や「期間内に行うべき学習の範囲や課題」は学生にとってわかりにくいと感じられるかもしれない。「学生の質問を受け付ける」「学生同士の話し合いなど参加する機会をつくる」などしてこの点をさらに改善できるよう工夫していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり、2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、学生の技術習得への意欲を高め、自発的練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の課題としたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅳ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、9割以上の学生の動機がそれに該当する科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。保育技術に関する教授内容であるが、技術獲得のための課題は授業時間中だけでは実施困難であるため、次回授業時提出の形をとった。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全ての学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、成績評価においてもA評価29%B評価79%C評価7%と成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であった。学習に際してシラバスの活用や図書館利用等はほぼなく、多様なソースを活用した学びは確認されなかった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連ＤＰについては妥当であると考える。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の技術について教授し、授業外の学習時間で課題を行うという進め方であり、学生の目標到達や成績状況も良好な結果であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。次の段階として、これ以降の授業で本授業で獲得した技術を発揮できる時間の確保ができればなお良いと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。また、2度目の保育所実習ということで、1回目の実習を踏まえて、各個人について必要な保育技術についても事前に聞き取りを行い準備した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において全受講生が目標を達したと回答しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。また、実習後の保育所からの評価についても全学生とも標準以上の評価であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。特に2回目の保育所実習であることから、高い保育技術を教授できるよう、全受講学生のニーズに個別に合わせ２名の教員で授業時間外にも個別に対応した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育士養成に係る4年次での最後の実習であり、将来の専門分野にも繋がる科目であり、この点を踏まえて授業を展開した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の到達度自己評価でも、やや到達できたと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	最終学年の最終の実習という意味で概ね妥当と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	最終学年であることもあり、保育実習全体の総括の授業でもあり、次年度もこの点を踏まえて授業を展開したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教員の評価も学生の評価も概ね達成できたと考えられるが、一部課題の残る学生もあった。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	谷川　弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	保育の現代的課題の内，医療保育に絞って学修支援を行っている。重い病気にかかり，入院治療を必要とする状況と保育士の役割について，子どもたちの視点から理解するために視聴覚教材を用いている。そのうえで病院における遊びの意義や留意点について学び，試行的な遊びの計画立案を行っている。死に行く子どもに対する支援のあり方について考察を促すことにより，いのちを大切にするとはどういうことかを考えるきっかけを提供している。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	選択課題であることもあり，それぞれに課題に向き合い，考えようとしていることが覗えた。遊びの計画立案に関しては，状況把握が十分とはいえない発表もみられたが，その点も含めて支援を行った。短い時間の中であるため初歩的理解と関心をもつということができたという意味で「概ね達成」と評価した。ただし，遊びの設定など，十分な配慮ができていない場合が散見され，スキル面ではどちらともいえないと評価した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	最終学年の実践的応用課題であり，問題はない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	視聴覚情報を提供すること，話し合いの時間を設けること，発表し，聞くことなど，多面的な理解ができるように努めた。 発表に対して可能な限り，学生の良さを指摘するように努力した。 遊びの設定については，設定の方向性について報告を得てフィードバックの機会をつくり，さらに深められるようにすることで，スキルの基盤を整えるようにしたい。 また，レポートをもとにしたグループワークの時間を設定したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	5コマという短い時間で，課題状況について経験がない場合が多い中では，このような学習機会を提供していることに意義があるように思われる。 昨年度よりも議論の深まりに欠ける面があったため，議論の焦点の絞り方については，見直しを進めていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木　光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	この授業を受講者は、養護教諭や保育士・幼稚園教諭を希望している学生がそれぞれ半数ずつである。 この授業では、個人あるいはグループで興味のあるテーマに関するキーワードを手がかりに文献検索を行わせ、得られた原著論文の要旨を読ませることによって、研究におけるオリジナリティー、方法論の重要性を理解させるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.5（±5.1）点であった。成績分布別にみると、89～80点が71%、79～70点が29%であった。全員が標準的レベルに達しており、そのうち71%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が14%、「わりにそうだ思う」が64%、「まあまあそうだと思う」が22%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が21～29%、「わりにそうだ思う」が43～71%、「まあまあそうだと思う」が8～28%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0～4.1）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が43～50%、「わりにそうだ思う」が36～43%、「まあまあそうだと思う」が14%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3～4.4）。 その他「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ4.4、3.9～4.2、3.9であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。授業では、個人あるいはグループで興味のあるテーマに関するキーワードを手がかりに文献検索を行わせ、得られた原著論文の要旨を読ませることによって、研究におけるオリジナリティー、方法論の重要性を理解させるようにした。すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～3.9であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、2,3回が86%、1回が14%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、2,3回が57%、1回が43%であった。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は43%であったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 　今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	はい	18

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」100%である。具体的に学びたい方向性が決められていない為、今日、何が社会的に問題となっているか、どのような方向性で社会が動こうとしているかについて、資料を基に考えさせるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」項目の平均値は低いものではあったが、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に着けることができた」では比較的高いもので、学生各自が習得できているものと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	ＤＰの上では、専門研究であり、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」項目が平均値を下回っていたが、「学びを深めたいと意欲をもつことができた」が3.7でDPの内容は妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	全般的にさほど高い評価ではないが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」で平均値が下回っていたものの、「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が3.9と最も高く学生の意欲を評価出来る。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と評価されていることで次年度につなげる期待が持てた。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	古川　敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ｉ	3	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①　「学生の授業評価アンケート」により受講動機を見ると、「必須科目であること」が100%であり、「関心のある内容である」ことが16.7%であった。専門研究Ｉの内容について、受講生は初めて接する状態であったことから、専門研究の概念説明から始め、徐々に、研究内容に親しみ、自ら研究し論文を書けるように指導する必要があった。そこで、最初は、テキストの基礎知識を提供する箇所を、共に精読し、互いに理解した限りを図解し発表し合う方法をとった。専門研究Ｉのこの段階は、基礎を積み重ねる時期である、という意識を持てるように工夫した。 ②　諸先輩の残した卒業論文を手にとらせ、先輩からの研究を引き継ぐという継承意識とそのアイデンティティの形成を留意した。 ③　理解度の速度や程度は、様々であることを利点とする工夫を心掛けた。すなわち、互いに学んだことを表現しあい、説明しあう方法を多く採用した。これにより、自分の学んだことを確認し、また、他の学生の異なる視点からの理解により、理解の幅と深みが生まれるように工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は、平均が90点以上であり、全員が80点以上であった。回答者6名の到達度自己評価によると、＜自分なりの目標を達成した＞という事項と＜職業の選択に参考となった＞の事項につき「かなりそう思う」「わりに」「まあまあ」が順に「2,1,3」であった。また、非専門の分野での＜知識＞＜理解する視点や考え方＞に関しては、やはりそれぞれ「3,1,2」「3,0,3」であった。＜ミュニケーション・表現力＞＜規範習得＞に関して、「かなり」「わりに」「まあまあ」がいずれも「2,2,2,」であった。他方、専門分野の＜課題を検討する力＞に関しては、「2,1,3」であったが、＜専門分野の学びを深めたい意欲＞＜判断する力＞＜技術を身につける＞の3つの事項では、いずれも、「2,1,2」であったが、それに加えていずれの事項にも「少しそうでない」という選択者が「1」あった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①　ＣＰの位置づけにつき検討すると、専門研究Ｉは、意味論から「人間の生」「人間関係」を通して「人間への支援」を探求するものである。言い換えると、意味論からこれらを捉えて、実現するものである。その意味論を専門的に研究するものであるから、内容的に妥当であると考える。②　ＤＰの位置づけにつき検討すると、ＤＰの項目のいずれにも、「全くそうでないと思う」というものはない。前項の欄に述べたように、「かなりそうだ」「わりにそうだ」「まあまあそうだ」という評価が圧倒的に多い。したがって、内容的に妥当であると考える。 ④　　以上から、内容的妥当性は認められると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	専門研究Ⅰでは、受講生に基礎概念が身に着くまでの間、教授指導型になりやすい。それでも＜参加の機会＞と＜質問を受け答える＞の事項では「かなりそうだ」「わりにそうだ」「まあまあそうだ」の順に「4,1,1」という全受講生が肯定的評価をしている。学生の意見は2件あり、「とても楽しく、内容もすごく深くて、幅広い知識をつけることができた」というものと、「5分前位に終わってくれると助かります」というものがあった。9人のゼミ生で発表と意見交換等があり、やはり時間はきちんと90分使った。今後、受講者が自主的に研究していくことになるのは、本格的には、専門研究Ⅱであるが、その予備的段階としては、今後は、受講者の負担を現在より増やせる進め方を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既に述べたように、ＣＰとＤＰとしては内容的妥当性を有していると考える。また、受講生の「自分なりの目標を達成した」ことでは肯定的回答が100%であったが、「かなり」が33.33%に留まったし、また、＜知識＞＜理解＞に関しても肯定的回答が100%であったが、「かなり」は50%に留まった。また、授業の質評価でも、全事項につき肯定的回答が100%であったが、全事項に「まあまあそうだ」と受け止めている受講生がいる点は留意すべてもので、改善を図りたい。また、各自の研究に、指定図書が受講時に用いること以外にも活用されているが、33.33%に留まった。今後は、指定図書の意味を説明し、より活用するように指導を工夫することが必要である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修		8

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①ゼミ生の専門的知識と研究力をつける為に、養護教諭の専門書等の文献の読み方、レポートの作成さらに発表･討議などの基本が学べるようにプロセスを考えて授業内容と展開を図った、更に研究論文の輪読会を行い、全員で学び合うことを重視した。 ②ゼミ生には、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、北九州市小児口腔保健学会等への参加機会を設けた。 ③希望者には長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を奨励し、学生の自主性を尊重しながら対応についての指導・助言を行いフォローに努めた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.88（±4.28）点であり、再試対象者は０名であった。成績の分布は、A 62.5%　B 37.5%　Cと D は0 %で履修者全員が理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）を達成した。 履修者の意見として、学習到達度の自己評価については、目標達成、知識理解，思考判断，関心意欲，態度、技能表現などの平均値3.9～4.8で高い評価となっており、また、授業の質についても（3.9～4.9）と高い数値での評価結果であった。学習量は殆どのゼミ生が自己学習時間を確保しており、課題学習も十分に行っていた。担当者が配布資料を準備しており、図書館、インターネットの利用については半数程度であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、専門科目であり、必修である。専門的知識、研究の力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表･討議などの基本が学べるようにプロセスを考えて授業を展開するとともに学会参加や体験学習なども推進したこと。その結果、履修生が優秀な成績を修めていることから，内容的には妥当であったと思われる。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 課題学習、レポート等の成績評価から知識理解・思考判断・意欲関心・技能表現・態度等すべてにおいて高い結果であったことから，内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	課題を事前に提示し、履修者の準備時間を確保することで活発な討議ができた。また、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、学会等への参加機会を設けるとともに、文献の読み方、レポートの作成さらに発表･討議などの研究の基本的な技能の修得を目指して指導を行った。 履修者からの授業者への「授業の質」については3.8～4.9の評価結果であった。　自己学習においても図書館、インターネットの利用など活発に行っており、養護教諭としての資質が向上してきたと考える。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられている」「学生の質問を受け付ける機会が十分であった」「専門的知識が深まった」などの結果から、能動的（アクティブ）学習活動が展開できたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業過程を振り返ってみたとき、授業者とゼミ生との信頼関係が深まるともに満足のいく授業であった。ゼミ生の視点及び成績評価等から見ても、履修者の専門性と実践力、探求力などの力量が育っていると考える。次年度はさらに向上することを願う。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	8

2. 観点･DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	前年度に提出された希望ゼミ調査票と面接の結果を基に、全受講学生の共通の関心を導入の題材として、事前の準備を行った。授業評価アンケートの自由記述でも見られたが、他の課題等で時間がなく、準備や復習が十分でない学生も散見された。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」は概ね高く、学生の自己評価としては、学習目標が達成されたと考える。成績評価も全受講生が8割以上の成績であり、良好な結果であったと考える。復習時間や図書館の利用等で学生個人に差がみられたが、8名という少人数のため、個別の指導は可能であった。今後は、学生の自主的な学習活動にまで結びつくような指導が必要であると考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	卒業のための必須科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	前述の通り、学生間で自学の量と質に差があったと考える。一律の課題提示ではなく、個別の課題設定や、図書館、インターネットの利用をさらに誘発するような課題提示が必要であると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね授業の目的は達成できたと考える。課題としては、少人数故に浮き彫りになる学生間の学力差や、自学の質に対する対応であると考えている。授業としての目標提示に加え、個人の目標設定を取り入れる必要があると考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、医療刑務所や少年鑑別所の司法施設や障害者や高齢者の福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」の』テーマの選定が行えるよう、アドバイスを行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年度と同様に、学術データベースの利用に関しても殆どなされてない状況であるので、次年度の卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォーメーションを行うことを早急に検討したい。特に次年度は最重要課題にしたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	嶋村　美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	前半はソーシャルワークの理解を深めて、人と関わることについて考えることができるようにプログラムをしている。後半は、相談者に出会う場面を想像し、ソーシャルワーカーは支援にあたってどのような情報が必要であり、どのように面接していくことが求められるのかを考えていくロールプレイを行っている。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業外の学習についてしている学生がおらず、時間内に与えられた中に限られている。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	３年次の専門研究の位置づけとしては、３年間の学びを通した知識と技術をどのように結び付けたらよいのか、事例について考える中で気づくことができることを目指して設定している。内容的妥当性はあると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の課題以外に学習に取り組んだ学生が１名であり、図書館利用については半数が利用したと回答している。より課題設定を工夫して、学生の自己学習の動機づけができるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	漠然としているソーシャルワークの知識や技術をつなぎ、より職業意識を高めて将来につなげていくことができるように、課題を設定する機会をより多く設けて、事前事後の自己学習への動機づけができるようにしていきたいと思う。ソーシャルワーカーを目指さない学生もいるため、それぞれの学生のニーズをさらに把握して、必要な知識や技術、倫理等が身につけられるような内容を含めていければと思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木　光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点･DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.3（±4.5）点であった。成績分布別にみると、89～80点が29%、79～70点が71名であった。全員が標準的レベルに達しており、29%の学生が理想的レベルに達していた。 　学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「わりにそうだ思う」が57%、「まあまあそうだと思う」が43%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が0～14%、「わりにそうだ思う」が29～71%、「まあまあそうだと思う」が29%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7～3.9）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が0～14%、「わりにそうだ思う」が71%、「まあまあそうだと思う」が14～29%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7～4.0）。 その他「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ4.0、4.0、3.9であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに学生各自が設定したテーマに沿って調べ、その内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。 すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、平均値が3.7～3.9であり、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生は、6回が3名中1名、4,5回が1名、1回が1名であった。また、1回30分程度以上の復習を行った学生は、4,5回が3名中1名、2,3回が1名、1回が1名であった。授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は3名中1名いた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に〇	〇	〇	〇	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目では、将来の専門分野に有用な内容を鑑みて展開した。国家試験・就職試験の準備の中で、やや難解な英文文献を翻訳し、成果物としてまとめた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の自己評価は概ね4であり、各目標とも概ね達成できている。意欲や関心、受講への態度構えは、十分に評価できた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	最終学年のまとめとして概ね妥当であったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生は一定程度満足していたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の将来の進路・専門分野が多様であり、専門分野別の学習支援にも時間を割いた。また共通の課題として卒業研究の成果物を提出し、概ね満足のいくものであったと考えられる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田　和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	はい	10

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」が100%である、3年次の専門研究Ｉから継続し、学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果を各自がまとめる取り組みをした。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」が100%である、3年次の専門研究Ｉから継続し、学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果を各自がまとめる取り組みをした。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生がほとんどであったことは評価できる。また、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と評価している者が3.7と最も高い点であったのは成果として考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生がほとんどであったことは評価できる。また、「専門分野のさまざまな課題を検討することが出来た」と評価している点も成果として考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	卒業研究のテーマは多彩であった。専門職に就いた者、一般に就職した者といたが、指導領域において5名の社会福祉士国家試験に合格し、医療機関に就職することもできたことは学生の努力の成果だと考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村　茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	2016年度は、３年生の「専門研究Ⅰ」と合同で「社会保障人生ゲーム」作成を行った。今まで学習した社会保障の知識を再確認すること、積極的に議論や作業に参加することを促すように努めた。また、国家試験受験者を主な対象とする国家試験対策も並行して行った。国家試験対策は学生の意向を重視して準備を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価の平均値はすべて4.7以上であった。学習量の評価については、準備を行った回数を0回としている学生が半数であるが、準備や復習をしている学生も見られたことは積極的に評価したい。					

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	そもそも学生は2年次に担当教員との面談を経て受講をしていることから、ゼミのテーマや具体的な内容を十分理解した上でゼミに臨んでいる。内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価の平均値は全項目において4.8であった。なお、事前準備のための学生の図書館・データベースの利用が少ないため、1年次から図書館等の利用方法についての指導の充実が望まれる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記の記述より、すべてのＤＰはおおむね達成されていると考える。今後もさらに充実したゼミを目指したいと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①専門研究Ⅱでは、論文作成を目指して指導を行った。コミュニケーションを図りながらゼミ生の自主性を重んじ、ゼミ生の意欲向上と達成感が得られるように努めた。 ②研究力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成、研究の仕方などをワークシートを活用して指導した。 ③卒業生との交流会、児童館でのふれあい体験ボランティア、研究会や教育セミナーなどの参加機会を設けた。　履修者各々養護教諭になりたい等の意欲が高まったと考える。 ④さらに採用試験対策として面接、発表、討議などの学習を重視した。授業では全員で学び合うことを重視した。 ⑤希望者には長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を奨励し、学生の自主性を尊重しながら対応についての指導・助言を行いフォローに努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	履修者は9名で最終的な成績の平均値は82.22（±2.48）点であり、再試対象者は０名であった。履修者全員が理想的レベル（概ね80点以上）を達成した。 論文作成及び研究成果をまとめることを到達目標として、指導を進めた。ゼミ生一人一人とコミュニケーションを図りながら自主性を重んじ、ゼミ生の意欲向上と達成感が得られるように努めた。 研究を進めるプロセスにおいて、取り組みが少し消極的な履修者に対しては、一層丁寧な指導と助言に努めた。 履修者の意見として、学習到達度の自己評価については、知識理解，思考判断，意欲関心，態度、技能表現などの平均値4.0 ～4.4であった。ゼミ生から担当者への授業の質については、3.8～4.3であった。授業での学修状況について、どのゼミ生も真面目であり、様々なゼミでの学修を深めていく中で養護教諭の資質・能力が向上してきたと考える。 採用試験対策と養護実習とゼミ研究、さらに一部のゼミ生にとっては福祉士の国試を同時に行わなければならず、度のゼミ生も時間配分や比重の置き方が難しかったようである。随時、相談や指導、助言や配慮を行ってきたが、ゼミ生にとって容易ではなかったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、専門科目であり、必修である。研究の力をつける為に、文献の読み方、研究の進め方、レポートの作成さらに発表･討議などにおいて、計画的に進めたことから、ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 課題学習、レポート研究論文作成等の成績評価から内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	課題を事前に提示し、履修者の準備時間を確保することで活発な研究討議ができた。また、出来るだけボランティアなどの体験学習や児童館等でのふれあい体験、学会等への参加機会を設けて、子ども理解を深めるよう奨励した。文献の読み方、レポートの作成・発表·討議などの研究技能の修得を目指して指導を行った。 履修者からの授業者への「授業の質」については3.8～4.3の評価結果であった。 「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられている」「学生の質問を受け付ける機会が十分であった」「専門的知識が深まった」などの結果から、能動的（アクティブ）学習活動が展開できたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業過程を振り返ってみたとき、履修者の研究成果及び成績評価等様々な観点から、概ね達成できたと考える。 研究の進め方については履修者の取り組みに格差がみられた。その要因として採用試験と養護実習の期間中及び福祉の国試に向けての学習、アルバイト・ボランティアなどがあり、苦慮したが、指導助言する中で学生一人一人と信頼関係が深まり、最終的に全員が各自の課題達成が出来てよかった。 卒業後の学生の資質向上と飛躍を心から願う。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村　眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	専門研究Ⅰの継続として、前年度の各個人の課題を把握し、個に即した課題を準備した。個別の指導に加え、授業外学習の必要性が増すため、他の課題と時期が重ならないよう配慮した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」は概ね高く、学生の自己評価としては、学習目標が達成されたと考える。成績評価も全受講生が8割以上の成績であり、良好な結果であったと考える。学習量や図書館、インターネットの利用も充分になされており、各学生が課題意識をもって臨んだと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	卒業のための必須科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	各個人が研究課題を明確にもって臨んでいたため、個々に対して必要な課題提示を行った。 「授業の質の評価」や「学習量の評価」「図書館、インターネット利用」についても課題提示の際に誘発されるよう組んだため、それを反映した結果となっている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的に授業目的は概ね達成できたと考える。他の授業との兼ね合いから、極端に課題が重なる時期があったことから、他の授業も含めた学生の利用可能時間の年間を通した均一化が必要であると考える。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村　浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、医療刑務所や少年鑑別所の司法施設や、障害者等の福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年度のことを踏まえて、ゼミ論をまとめるために、学術データベースの利用に関して指導をおこなったのであるが、あまり利用がなされてない状況であった。次年度は、今年度以上に、利用の仕方からのインフォーメーションを行い、積極的利用にい繋げていきたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取ることが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全受講生が、希望する就職先に進むことができた。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸　美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修		9

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」100%のみであった。学生によって、関心のあるテーマが異なるため、教員と学生で話し合う機会を確保し、専門研究Ⅱで取り組む内容について検討した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	再試験対象者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上に達した。到達自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3項目については、平均点が4.0点以上であった。また、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の3項目は平均点3.9点であった。また、約8割の学生が図書館を利用していた。これらのことから、知識理解（DP1）、思考判断（DP2）、意欲関心（DP3)、技能表現（DP5）は「達成された」、態度（DP4）は「やや達成された」と考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目の受講動機は「必須科目である」が100%であった。しかしながら、到達度自己評価をみると、理解（DP1）、思考判断（DP2）、意欲関心（DP3)、技能表現（DP5）は「達成された」、態度（DP4）は「やや達成された」と考えられることから、内容は妥当であると思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年度の課題をふまえ、自ら考える時間を設けると同時にグループで意見交換をする機会を確保するようにした。授業の質の評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.0点であり、他の項目も3.8点以上であった。これらのことから、本年度は自ら考える時間を設けると同時にグループで意見交換をする機会を設けることができたと考えられる。今後も学生が自ら考える時間とグループで意見交換をする時間を確保し、学生が主体的に学べるようにする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	すべての学生が標準以上に達したと考えられる。昨年度は予復時間が少なかったことを課題としたが、昨年度に比べ、予習を行った学生が増加した。今後は、学生が予復習に取り組みやすいように、取り組むべき課題について学生と一緒に検討するようにする。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根　正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育者論	1	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	1年時後期科目であるが、保育士取得を目指す学生にとって導入科目・必修科目である。本科目は保育者像の基礎を培うものであり、イメージの形成が重点となる。授業はテキストを読み内容についてのノート作成を義務付けてた。理解度を確認する意味も含め、輪番で内容をパワーポイントにまとめプレゼンテーションすることとした。ノートについては、毎週提出させ内容のチェックと評価の後次週返却し、復習を兼ねた。概ね学生の理解は深まったと考えられる。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生自身の自己到達度評価は平均値が概ね４であるが、一部の学生はノートの作成やプレゼンテーションにおいて最低の基準にしか達していない。テキストの何が重要なのかという点について、認知がやや困難な学生について一層丁寧な指導を必要とする。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	保育士資格取得の必修科目であり、保育士養成の基礎科目であるため、学生の学習動機づけ、授業への積極的な参加は、その後の科目の学習に繋がるものと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	内容は基礎的なものであるが、先述したように次年度は、学習効果を高めるためのノート作成の更の留意点などを指導しながら授業を構成したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講者が少人数であるため、相互のコミュニケーションの取りやすく学生の」学習状況について把握しやすかった。次年度は学生数が増加するため、ノートによる予習の添削や授業の当該時間に双方向のコミュニケーションを更に意図的に展開し、理解度の把握に努めたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	古川　敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」（学科ＡＢの全体65名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「資格取得」が4.6%、「単位数確保」が7.7%、「友人関係」が3.1%であった。後期といえども、ほとんどがキリスト教Ⅱの内容に初めて接する状態であったことから、授業は前期の復習を含めて受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第１に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を再度、最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第２に、シラバスにより評価基準を明示した。しかし授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「13、13、35」で89.71%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「6、1」で10.29%あった。 ② ＜学生の質問を受け付け、それに答える機会＞としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。 ③ 総合人間科学の科目であり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えは、可能な場合には福祉と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。 ④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は82.11点であった。分布的には、90点以上が19.44%、89～80点が51.39%で、理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は70.83%であり、79～70点が23.61%、69～60点が5.63%で、標準レベル（概ね60点以上）のそれは29.17%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。 ② 学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「11、15、38」と「8、16、39」で 94.12%と92.65%で、それぞれの否定的回答は「少し」「全く」の順（以下同）に「3、1」と「3、2」で5.89%と7.35%であった。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「7、8、45」と「6、7、45」 で88.24%と85.29%であったのに対し、否定的回答は「6、2」と「8、2」で11.76%と14.71%となった。 ④ 専門分野でも＜意欲＞では肯定的回答は「6、8、42」で82.35%であり、否定的回答は「9、3」で17.65%であった。 ⑤ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「7、6、47」「5、9、43」で88.24%と83.82%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「6、2」と「9、2」で11.76%と16.18%であった。 ⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「7、10、42」で86.76%であったのに対して否定的回答は「8、1」で13.24%であった。 ⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「6、6、41」で77.94%であったのに対し、否定的回答は「10、5」で22.06%であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	① ＣＰの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となり統合する総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では5.89%と7.35%であった。専門分野の学習において＜検討する力＞の数値は11.76%であり、＜判断する力＞では14.71%であった。＜意欲＞は17.65%であった。＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では11.76%、16.18%であり、＜倫理・規範＞に関しては13.24%であった。② ＤＰの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が前者２つは一桁台、そして残りが13%台であった。課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答は、11%台と17%台との間であった。③ 以上において、ＣＰの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野でも80%以上であり、授業内容は妥当であると考える。また、ＤＰの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考える。すなわち、ＣＰ及びＤＰカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員への意見は4件あり、「1年間有難うございました」等の感謝のものが3件あり、「説明がわかりにくい」という意見が1件あった。学習量につき、「何をすれば良いかわからなかった」という学生は2人であった。第１回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設け頻繁に喚起し、学習量の増加を奨励したことで、若干の効果が見られた。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予復習＞６回が10.29%、4,5回が7.35%、2,3回が26.47%、1回が25%であった。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ） の順に「13,13,38」で94.12%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「4,11,38」で77.94%であった。否定的回答は、「少しそうでない」「全くそうでない」の順で「8、7」で22.06%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答は「4,9,40」で77.94%であり、否定的回答は「10,5」で22.06%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答が「6,15,37」と85.29%であり、否定的回答が「9,1」で14.71%であった。 ④今後のこととしてであるが、 ＜理解＞と＜参加の機会＞とにつき否定的回答数が2割強と同数あり、＜予復習＞欄の0回の割合が30.88%であったということとの関連性も推定でき、知識・理解をより得られるように、１）参加の方法、２）予復習の奨励につき工夫する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も一層明確にし、予習・復習の必要性と具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる統合的な総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。加えて、この科目は実学であって、学生の専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での統合的な判断力及び意欲の基盤を強くするものである。そこで、＜ 授業の進め方とその向上について＞に記載した改善策に取り組む工夫をする。 ③以上から、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	柳澤　伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を挙げた者が８３％と圧倒的に多く、「「関心のある内容である」を挙げた者は、９％に過ぎなかった。すべての受講者に初めから積極的な受講姿勢を期待することは難しい状況の中で、新聞記事を始めとして、できる限り最新の情報を教材に使いながら、ジェンダーが現在の女性の生き方に係わる大切な問題であることをつかめるように心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	どちらともいえない		やや達成されなかった		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は、秀が１５％、優が７％、良が４８％、可が３０％で、拡散的であった。到達度自己評価は、各項目２．８～３．４で、知的理解に係わる項目、「知識を確認修正したり、新たにうることができた」は３．４であったが、「専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」は、３．０にとどまった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1とDP3に係わる位置付けがされている。受講動機の状況から、動機付けに苦慮する面があった。成績は拡散的で、授業をよく理解した秀の者もいたが、理解が不十分な可の者も少なくなかった。学生の授業評価アンケートの自由記述で、授業の課題以外に「深く調べてみた」、「レジュメを見て復習した」、と記述する者もいたが、「何をしていいかわからなかった」、と記述する者が複数いた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ１枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業中に使用したキーワードについて説明させるレポートを複数回課したことは、理解を整理する上で有意義であった。しかし、予習・復習について、学生任せにいたきらいがあり、課題以外に学習に取り組んだ者は少数にとどまった。教員には、予習復習に関しても課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義を通して、ジェンダー問題に関して基本的な知見を与えることはある程度できた。しかし、、予習・復習を含めて、アクティブラーニングを促す工夫については、なお改善の余地が大きい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	陳　青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	１．アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の83.3%を除いて、③「関心のある内容である」は33.3%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。　　２．授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	１．最終的な成績の平均値は88.3点であった。そのうち８０点以上6人ということから、標準レベルに達していた。　　２．DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。　　３．DP-3の【関心・意欲】においては、関連領域との協同により現実に即した解決を図る意欲が示されていた。　　４．学生による授業評価においては、「授業に参加するために１回３０分程度以上の復習」を「週６回」は4人で、「授業の記録作成」で「自分なりのノートを作成した」が２人、「主に配布資料に記録した」が3人であった。以上から、全体を通してやや目標を達成し、知識理解もやや達成されたといえる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は4.3点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.3点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.3点であった。一方、「職業選択の参考になった」は2.7点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	１．授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.3点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がつくられていた」は3.0点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。　　２．「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は4人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。　　２．「情報・図書館利用」「利用しなかった」が2人であったので、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べることができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木　光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	70

2. 観点･DP上の位置

該当に〇	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	〇	×	×	〇	〇

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.2（±9.7）点であった。成績分布別にみると、90点以上が26%、89～80点が39.%、79～70点が22%、69～60点が10%、60点未満が3%であった。ほとぼすべての学生が標準的レベルに達しており、約65%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだ思う」が45%、「まあまあそうだと思う」が21%、「少しそうでないと思う」が2%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が3～16%、「わりにそうだ思う」が29～42%、「まあまあだと思う」が40～59%、「少しそうでないと思う」が2～7%、「全くそうでないと思う」が2%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.3～3.7）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.3、3.3、3.3～3.7、3.5であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。 「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「技能・表現（DP5）」および「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～3.8であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外でランニングやジョギングをしていた者や家の中でトレーニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野　郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①　講義は高校の基礎レベルからはじめ、身近な生活のなかで気づく「体のしくみと異常(疾患)」に焦点をあて、事象をだしながら講義を行なった。 ②　講義内容が理解できているかどうかを確認するため講義途中で学生に質問をする、質問を受けるなどの機会を作った。 ③　レポート課題については、グループディスカッションの後、レポートを提出させた。今年度は、レポートの評価基準のみならずグループディスカッションの評価基準も明確に提示し学習準備を促した。 ④　レポート作成に複数の文献を使用することを評価基準にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的にするよう促した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は70.1点で81%の学生が標準的レベルに達し、理想レベル（80点以上）の学生は31%であった。再試験該当者は3名であった。課題レポート平均点は16.5/20点(83%)であった。 ②学生の知識理解の到達度自己評価の平均値は4.0で新しい知識など得ることができたと回答している。しかし、残念ながら知識理解の達成度は68%であった。意欲関心の達成度は77%で、専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができたとする自己評価平均値は3.9であった。 ③学習量の評価をみると学生間で予復習にかける時間に差が認められた。1回30分の予復習を2回から6回した学生が67%いる一方、1回も予復習に時間をかけてない学生が20% (3名)いた。 ③課題レポートの評価基準は明確に示すよう心がけた。また、提出期間を考慮し学習時間を充分確保したためか授業の質評価平均値はともに4.3であった。また、グループディスカッションにより自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会を作り、知識の理解や意欲を深める工夫をしたためか自己評価平均値は4.5であった。　　　　　　④レポートの評価基準に図書館の活用をあげたため図書・雑誌および学術データベースを利用した学生が93%と高値を示した。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 　この科目は一般教養科目であり選択科目である。社会人としての一般教養、さらに人体に関する基礎知識を学び専門科目へとつなぐ位置づけの科目として、この内容は妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 　生物を学んでいない福祉学科の学生にとり、ハードルが高い科目とは思われるが、81%の学生が標準レベルに達しており、「とても身になる授業で楽しかった」との自由意見もある。また、標準レベルに達してなかった学生も再試験では合格しており科目の内容自体は妥当であると考える。 ③まとめ 　上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①受講動機が単位数確保のためとする学生が73.3%、関心があるとする学生が60%いる。スタート時点でのモチベーションの差に加えて生物の基礎知識にも差があると思われる。この差を埋めるために、早期の段階で講義にグループディスカッションを組み合わせ、学生間で講義内容の共有をはかり、内容の理解を深めるとともに意欲をますよう工夫をする。 ②上記に記載した授業改善策により、図書・雑誌利用率と学術データベース利用率は、ともに93%と大幅にアップした。図書館と連携したこの試みは継続して実施する。 ③学習時間を確保するために、レポート課題とは別に、ミニ課題を出すなどし学生に調べ学習を促すような工夫をする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と人体に関する専門教育への基礎知識を培うという目標は概ね達成できた。学生間の学習習熟度の差を縮めるために講義手法に工夫をする必要がある。また、学習時間の確保のため調べ学習を促すなどの方策も検討する。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	後藤　宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	2つの目的を達成するように講義形式と内容を考えて準備を行った。1つは、数学を使用することから、難解と思われている経済学を分かりやすく伝える目的であり、もう一つは、初歩的でありながらも、最近の経済学を伝える目的である。そのため、課題を出すことやイメージが伝わるように映像を使用するなど工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体的によくできていたが、1人だけ単位を落としたので、上記のような評価をつけた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	ゲーム理論、マーケットデザインなど最近の経済学を導入している。その知識だけでなく、その学習過程と一般的な論理性も得ることになると考えている。そのことからDP1とDP3は満たしていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	経済学という道具を学ぶのでどうしても、練習が必要になる。より身近な話題に注目して問題を作成したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	シラバスに書いた内容は大方達成できた。課題として、問題演習の内容をより身近な内容に変更することを考えている。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村　茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」84.2%、「必修科目である」28.9%、「単位数を確保する」10.5%であった。教職必修科目であることから、福祉・心理・養護教諭コースの養護教諭志望者および子ども家庭福祉コースの幼稚園教諭志望者が履修者の大半を占めていると思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き下げられたことを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	後期試験の平均点は67.74点、再試対象者は2名であった。また、設問がやや難解だったか、理想的レベル（80点以上）に達した者は3名であった。知識理解を文章で論述してもらう問題形式であったが、基本的な知識の理解がやや不十分な答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.6、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が3.5と比較的高い。他の数値も「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く多くの項目の平均値は3.1-3.4の間にある。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。②DP，行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.3、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.2、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.1であった。上記の内容的妥当性のところでも触れたが、シラバスを参考にしている学生が半数以下であることが影響していると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はともに2.8であった。これについては、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。ただ、学生からの質問については、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。授業以外に学習していない理由として「何をすればよいかわからなかった」という意見が散見された。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見については、「現在の日本の状況について少し理解することができました」という意見もあったが、一方で、「教採に役立つもの（もしくは特化したもの）がいい」という意見も見られた。しかし、この科目はあくまで「総合人間科学」科目であることから、単に教員採用試験の勉強のため、という狭い目的にとどまらず、幅広い教養の一環としてこの科目を捉えてほしいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	石田　もとな

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	必修	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	６８人中６４人が何らかの形で予習に取り組んだことは評価に値すると考えられる。保健福祉学科においては、難しい専門科目が多く、教養として必須の英語に関しては可能な限り楽しく、負担にならず、かつ勉強になるものをと考えた。予習に関しては、すでに当該学科においては当然のことという認識がみられた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	専門科目ではないため、英語に関する苦手意識を取り除く、楽しむ、映画の中の表現を学ぶことに重点を置いた。期末テストは満点多数、殆どの学生がSまたはA評価であり、アンケートにも「後期の授業で一番好き」「この授業がなければ、見れなかったものをみれ、もっと英語を学びしゃべれるようになりたいと初めて思いました」等の楽しむこと、英語を好きになり、意欲を持つことができたというコメントが多く見られた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	個人的には、この科目は、DP3に該当すると考えている。知識理解という点においても内容は妥当であると考えられるが、保健福祉にかかわるものとは違った、教養という意味での知識であると思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	アンケートの自由記述（担当教員への意見）のコメント１６中１５件が楽しかったという類のものであったが、１件「楽しかったが、教材をもっと難しくしてほしい」というものがあった。全員ではないため、どのレベルに合わせるかは非常に難しい選択であるが、そのような建設的かつ前向きな意見があったことは、非常に喜ばしいものと感じている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の取り組み姿勢、努力、理解度は満足できるものであった。また、科目に関わらず人間としての教育は大切であると認識しているが試験の際の学生の態度には、尊敬の念すら抱いた。試験には真摯に取り組み、試験中に出た消しゴムの屑を丁寧に集め、会釈をして退出していた。知的レベルの高さだけでなく人としての常識も社会に出るためには必要不可欠であることを再認識し、より高度な知識と、人間としての力の育成に役立つ授業にしていきたい。今後も映像を教材として使用していきたいと考えているが、当該学科においては医療・福祉・保健関連のものを使用するなどして、レベルアップとモチベーションの維持・向上に努めたいと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	薬師寺　元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅳ	2	後期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、少数を除き、ほとんどの学生が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「TOEIC、英検２級の勉強」、「英単語を調べる」、「ノート作り」、「予習、復習」、「単語テストの勉強」とありました。相当難易度の高いテキストだったとおもいますので、予習、復習には、相当時間が掛かったと推測致します。しかし、語学学習は、繰り返しと忍耐力も必須ですので、「専門書を原書で読める」ようになるには、避けられない学習だと存じます。④英語のＲｅａｄｉｎｇの授業ですので、授業に入る前に、自宅学習と致しまして次回の範囲を４回以上音読することを義務付けました。しかし、これは、あまり、実行されていなかったと推測致します。『受講動機』は、必修科目ですので、前期と同様にほぼ全員が、真剣に取り組んだと判断致します。しかし、専門科目である福祉関係の科目の準備が忙しすぎて英語まで手が回らないと言う自由記述が多々ありました。「授業で精一杯だった」、「予習、復習のスピードが速すぎて他の事に手をつける時間がない」等がありました。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、最終的な成績の平均値は１００点満点中の86.13点で,あり、非常に高得点でした。成績優秀者の中に、不可が、２名程、いたのは、無念でございました。８０点以上で、理想的なレベルに達したのは、８９人名中６６名でした。小テストは４回実施致しました。問題が限られているせいか全員が高得点でございました。小テストの様式は穴埋め問題ですので、難易度は、標準的なものを作成いたしました。テキストの『日本文化を世界に』をもう少し時間をかけて重層的に幅広く説明できれば、もっと、理解が深まるのではないかと判断致します。『学生の到達度自己評価』につきまして肯定的な解答は、（１）自分なりの目標を達成した７４％。（２）知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た（７５％）。（３）事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることが出来た（６７％）。と非常に割合が高い結果になっております。しかし、（４）自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た（約６５％）。（５）自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た（５８％）。（１０）職業選択の参考になった、という点では、解答が５７％で、前半に比較すれば、やや低い結果となっておりますが、半数以上ということで達成されたと判断致しました。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価に関しまして、①CP，本科目は福祉学科の必修科目でありますが、昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に突入したため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必須科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」等に関するものが、８割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。②DP，行動目標から見ての内容的妥当性に関しまして学生が達成すべき行動目標は、「英語の専門書を読む基礎力をつける」と挙げられています。この項目につきましては、『日本文化を世界に』を中心にした教科書により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、「英語の専門書を読む基礎力をつける」という点においては、語彙力、文法力、リスニング力を強化できたと考えます。③まとめ、以上から、内容妥当性にはほぼ問題はないと判断致します。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあそう思う」と「わりにそう思う」と「かなりそう思う」を合わせると、６９％であった。「期間内に行うべき課題は明らかであった」では、７２％であった。「説明は理解しやすいものであった」では、６７％であった。授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、７４％であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつくられていた」では、７７％であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的でございますが、５項目の内、「説明は理解しやすいものであった」では、「そうは思わない」と言う意見が１３％ございました。一割ではございますが、全員が満足するような解答になりますように、「アンケート用紙」を活用したり、学生の意見をよく聞いて、次回は工夫を凝らす所存でございます。学期はじめに、英字新聞、英語ニュース、映画、ＤＶＤ、英語の雑誌、ネイティブの先生と英会話を楽しむ等を利用して、一日３０分以上は英語に触れるようにと、オリエンテーションで詳細に説明したにも関わらず、「課題以外することが分からない」という学生からの意見がありましたので、今後は、もっとじっくりと何回も繰り返し、授業以外の英語力の高め方を説明していきたいと考えております。他に「授業のスピードが速い」、「和訳をゆっくりお願いします」という要望がありますので、その点を気を付けて、授業に臨む所存です。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業を振り返ってみると、教科書『日本文化を世界に』を中心にプリントを毎回準備し、非常に丁寧に、じっくり進めたつもりであったが、本科目に対する学生の意見に「もう少し読む時間が欲しい」、「少し授業が早かった」、「もう少し和訳を繰り返してほしい」等、授業のスピードに関する意見が、多く挙げられておりました。この点を次年度より、十分に心得、学生の様子を観察しながら、対話をしながら効率の良い、授業を進めていくようにに努力致します。また、また、学生が具体的に取り組んだ学習と致しまして、「単語を覚えた」、「小テストの学習をした」、「英語を日本語に訳すことをした」、「教科書を読んだ」、「予習、復習をした」が挙げられております。今後は「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接コミュニケーション」をしっかり測りながら、学生の英語力の向上を目指して、具体的で、適切なレベルと教材量を検討し、なお一層工夫を凝らした取り組みと改善を実施していきたいと存じます。また、講義終了後の感想と致しまして、ほとんどの学生が、大変真面目にノートを纏めているのに、感激致しました。学期の始めに、授業中、寝ているように見受けられ、音読も不得手の学生が２人程存在致しましたが、学期末には、見事に帳尻を合わせ、内容理解を確実にしていましたのには、驚きました。改めて、若者の可能性が無限であることを実感致しました。クラス全体を見ると同時に、個々の学生にも細かい配慮をするように努める所存でございます。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷　恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理（教職科目）	1	後期	選択	はい	41

2. 観点･DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①教職をとる学生が始めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので一部からは私語が気になるという声も聞かれた。将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、そのことについて叱責はせずに静寂に至る情況づくりに腐心し、自律性の涵養につとめた。 ③ディスカッションなども採り入れて、参加度を高める工夫もした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	試験成績の平均は76.1であり、全体の平均点75.5を0.6ポイント上まわり、理想的と言える80点以上の学生は40名中20名（50.0%）おり、おおむね悪い成績ではなかったと言える。記述式の試験をおこなったので、この数値は期待した知識理解に関してなんとか目標の水準に達しており、目標はやや達成されたと見るのが妥当だと言える。 学生の自己評価でも、各項目に於いて半数以上の学生が「まあまあそうだと思う」というところに記入しており、その平均値は3.1～3.6であって、学生の達成感はあまり高くない。全体に「やや達成された」という評価が妥当であると言える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	教職課程の科目であるから資格取得・必修という受講動機が多いが、いくつか他の学科より動機の幅は広い感がある。教職に就くことのみならず福祉学科の学生として教育に関心が゛あるのだろう。その意味も含めてカリキュラム上の位置づけは妥当だろう。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	説明の理解しやすさに難を示す学生が見受けられ、学生の平均値も3.1～3.4とまだ課題を残しているようなので、その辺りを工夫した授業づくりをしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識の修得についておおむね達成できたとはいえ、学生の満足度に課題を残していると思う。さらに理解しやすい授業にするべく工夫を加えてみたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷　修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限が終わった後の科目であることから、それ以前と比べ学修への動機付けが低下する可能性は否定できない。 養護教諭の特性上、本講義の内容を子どもの社会的発達の理解と学校組織の関連という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学科平均70.2（全体平均63.7）であるが、前年度より4ポイント向上している。不合格者数も前年とほぼ同様であった。 受講態度等も特に問題はなかった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	教職科目であるため、学科ＤＰと直接連動する部分は少ないが、組織内あるいは組織間の協働・連携にかかわる専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	人数制限の時期が変更になり、本科目が対象外になったため、学生の動機付けレベルの低下が心配されたが、杞憂に終わった。 前年度と比べて大問Ⅰのような知識理解を中心とする設問への対策プリントを作成し、授業で活用したことが結果につながったと思われる。今後はより深い学びへつながる土台としての知識理解の定着を図りたい。 学生にとって自己の体験と比較しやすい分野（児童期の仲間集団経験など）と比較し、そうではない分野（社会的発達の概念と社会化論の関連など）は理解度が低かった。前年度の反省を踏まえ、この領域に関するプリントを作成し、それを活用した結果、ある程度の向上が認められた。 本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考える。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今回は看護学科の成績上昇が大きいため目立たないが、福祉学科もある程度満足できる結果であった。この傾向を継続していけるよう動機付けレベルでも、教材や方法の工夫の面でも努力していきたい。特に養護教諭として教育社会学の知見をどう生かすかという観点から授業を組み立てていきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷　恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一歩踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③チームで考えるという場面も採り入れて新しい学びのやり方をさせてみた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.7であり、この科目の平均値の83.6と変わらない。理想的な水準と思われる80点以上には32人中21人（65.6%）が該当した。さらに11人が90点以上であり、なかなか良かったと思う。 　学生の到達度自己評価は3.5～3.8と安定している。中央値はおおむね4.0に集中しており、学習成果には満足しているようだ。図書館の利用者は少なく、その辺りの学ぶ力を獲得してもらいたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	受講動機は必修・資格取得というところに集中しており、教職志望者にとってはカリキュラムの中に位置付いていると言えよう。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価についての学生の平均値は3.5～3.6で、可もなく不可もなくという見方をしているのか。しかし、到達度自己評価において「コミュニケーション力や表現力」の中央値は3.0であり、表現活動を促す方向での改善を計りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職課程の具体的な内容に入っていく科目なので、リアリティを持たせる授業改革をしていきたい。

リフレクションカード　2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期･後期･通年の別	必修･選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	28

2. 観点･DP上の位置

	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
該当に○	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では必修科目であり、養護教諭コース選抜後であるため、ほぼ進路が確定していると思われる受講生であるため、学校現場での養護教諭の実習に生かせるように授業を進めた。全員に学校保健教育の授業指導案作成の始動を行い更に校種に分けて小・中・高校の模擬授業を数名に体験してもらいその他の履修者には児童・生徒役及び授業観察者役を体験できるように工夫を行った。③また、昨年度同様、授業観察記録シートを使って記録の仕方や授業の振り返りを行うことで授業者の疑似体験を理解できるようにした。 ④昨年度の反省から、授業の始まりにねらいと学習活動を明確にしかも丁寧に説明することで予習がスムーズにできるように努めたが、30分程度の学習時間の確保が2・3回以下が80%、授業の課題以外の学習が57%との回答であった。実際、授業の進め方に苦慮したのも事実である。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	"　最終的な成績の平均値は79.21（±7.08）点であり、成績の分布は、A 10.7%　B 53.6%　C 28.6 %　D 7.1 %で履修者全員が単位取得できた。①到達度自己評価では、10項目の観点別の評価の各平均値が3.8～4.0であり、「専門分野における学びを深めたい」平均値4.0であった。②授業の質評価では、「授業中に自分の意見をまとめ、話し合う、発表する、など学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書などで学生の質問などを受け付け答える機会が設けられていた」などの観点では平均が3.6～3.7であった。 　これらは、事例や課題を提示して能動的に学習できるように授業を工夫したことによると考える。ただし、履修者の学習量については、ほとんど予習（４名）・復習（３名）をしなかったとの結果も忘れてはならないが、おおむね到達できたと考える。 　学習到達度自己評価では、履修生の多くが指導案作成や模擬授業の体験学習を積極的にすることができ、成績や行動目標の達成につながったと考える。また、昨年までも使用していた学習カード及び模擬授業観察カードについては、授業に対する興味関心が高まるとともに、思考判断及び日々表現力などが培われていくものと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、養護教諭コースの専門科目であり、3年次開講の必修である。養護実習につなげる位置づけから、校種別の学校現場の状況を提示することで動機づけを高め、また校種別の指導案作成、模擬授業の演習に進めて行くプロセスであることから、内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 履修者の多くが意欲的に取り組み、行動目標の達成及び成績評価から見ても達成できており、妥当であったと考える。 ③まとめ　以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。　　養護教諭一種免許取得では必修科目であり、養護教諭コース選抜後の3年後期の開講であることから、学校保健教育の基礎理論から実践力を養えるような目標と内容に絞って授業を展開した。事や全員が一応単位習得できたことなどから、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今年度は模擬授業の体験を志望する学生が非常に少なかった。その理由として福祉の現場実習、本人または家族の病気あるいはアルバイトなどで準備ができないことを上げていた。②そのため、全員の学びを高めるために模擬授業後ににカンファレンスを設定し、授業者役の自評と観察者役の意見交換を行い、学生がより良い授業に向けて学習できるように図った。しかし、授業の課題以外の学習する履修者が約50%程度、自己学習の時間が少ない履修者が多かったことは担当者としては残念であり、授業担当者としてもっと工夫をすべきであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学校保健教育法は、養護教諭専門の必修科目としての位置づけから基礎的理論と方法を理解したうえで、実戦に向けての思考判断、技術表現等を修得するものであるが、成績評価等から概ね達成できたと考える。本年度は事前に学習課題及びねらいを具体的に示すようにしたが、課題学習は全員が提出できたが、それ以上のことを行う学生が少ないことがこれからの課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	大黒　剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業の実施にあたり、大切にしていること：教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。　したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.9～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。これは去年の平均点を上回るものだった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「関連する本を読んだ」　「復習をするようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もおり、教育相談ついてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。　思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど（76.9～90.9%）である。そのことからも、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるように工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、去年は平均点3.5だったが、今回は4.0とポイントが上がった。新たな取り組みとしてテストについては明確に学生へ提示した結果だと考えられる。また今回は模擬テストなども作成した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力（事例解決の思考判断）、また③実技（カウンセリング能力）を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。また、インターネットを使ったリサーチや、ワークも盛り込みたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田　あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①教職養護教諭一種免許状取得の４年生では必修科目であるため、養護実習の仕上げとしていることから、授業では全員で学び合うことを重視した。また、教育委員会及び本大学の福祉心理の専門家からの講師派遣要請し、さらに現場の養護教諭の派遣が無理とのことであったので、シラバスを変更することになった。以前から学生に役立つと考え要請を考えていた口腔の専門家に講師依頼を行った。養護実習での学びの補強を行えるように図った。配布資料や授業の進め方を工夫すると共に、さらに養護実習中で欠席する学生には学びにつながる具体的な課題及び学習方法を指導し、またフォローも行ったことで、学生の不安等が解消されたと考える。②アクティブな授業方法を取り入れ、学生の学びが深まるような工夫を行った。その結果、殆どの学生は事例分析、役割演技等に積極的な態度で取り組むことができていた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	福祉学科の養護教諭志望の履修者は30名（科目等履修者2名を含む）で、最終的な成績の平均値は85.93（±4.40）点であり，再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達した。（概ね80点以上として試験を作成） 　学習到達度評価では、全員が目標を達成しており、目標別にみても知識理解、思考判断、意欲関心、技能表現など平均値は3.6～4.0であった。履修生の多くが積極的に取り組めていたことが、成績や行動目標の達成につながったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、教職養護教諭一種免許状取得の４年生では必修科目であり、学校現場の実習を体験した後で履修する仕上げの専門科目であり、ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的に妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 履修者の動機づけが高く、授業への取り組みも積極的で極めて高い成績を修めるていることから，内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	履修者からとして、授業の質評価では、5項目の各平均値は3.4～4.0であった。「授業でいっぱいいっぱい」「レポート,PW作成等で図書館やインターネットで学びなおした」「自分がどのような養護教諭になりたいか改めて考えるよい機会になりました」などとあり、授業の質については高い評価結果であった。 養護実習の振り返りを行い、その仕上げとしていることから、具体的な課題及び学習方法を指導する際アクティブな授業方法を取り入れ、授業では全員で学び合うことを重視した。シラバス通りにいかなかったとの指摘があるが、外部講師の変更があったことや学生の振り返りのため養護実習での体験状況を踏まえ、授業の順番を変更してシラバスの変更を行った。変更を行う際、事前に予告したものの、なるべく変更しないように図りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職実践演習（養護教諭）は養護教諭専門の応用科目で必修科目としての位置づけから、基礎理論を理解したうえで、実戦に力に向けての技術等を修得するものであり、成績評価等から概ね達成できたと考える。外部講師の選定では養護実習での学びの補強を行えるように図ったことから、多角的な視点や専門性を深められたと多くの履修者にとって好評であった。以上のことから概ね達成できたと考える